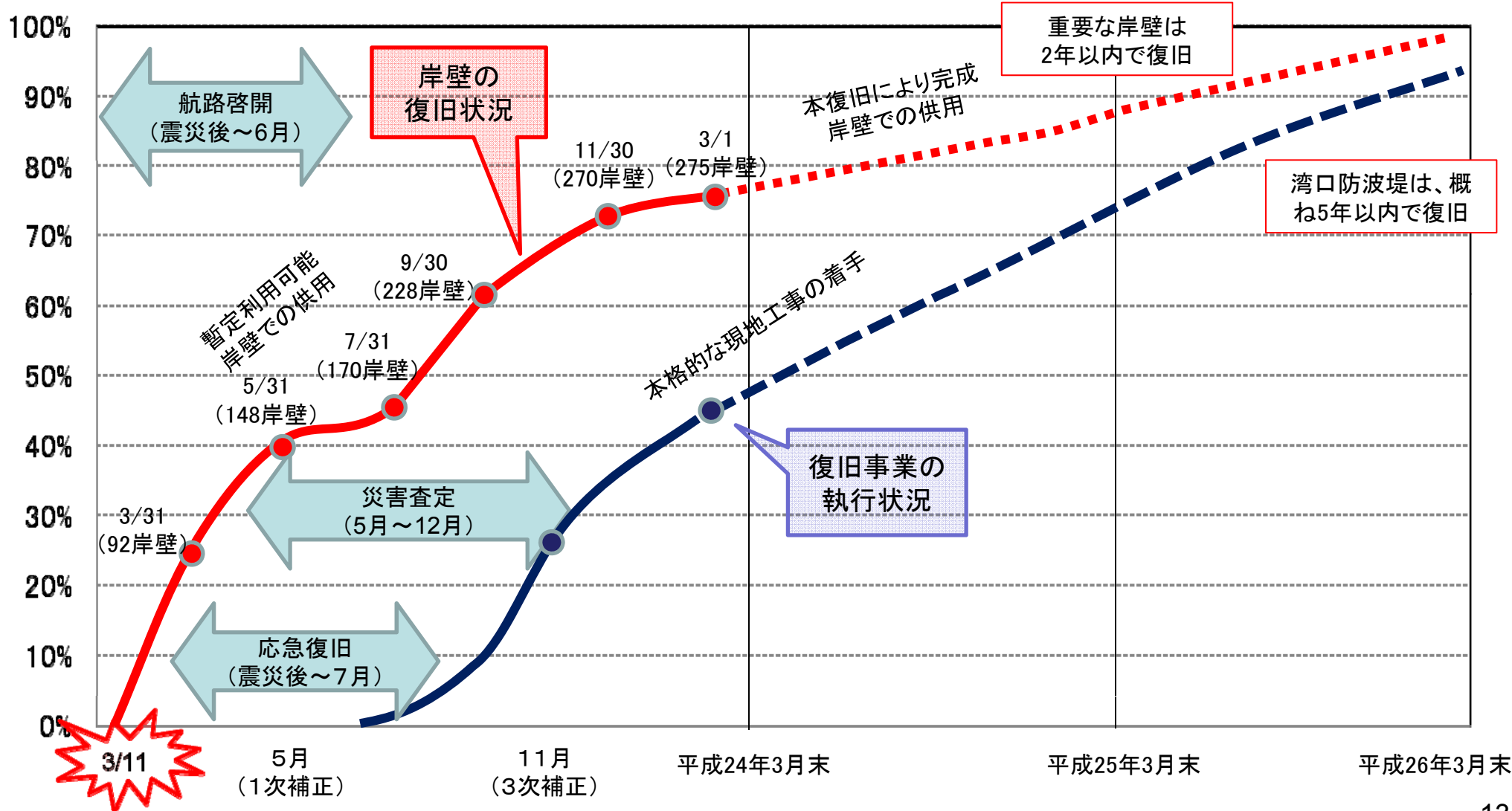
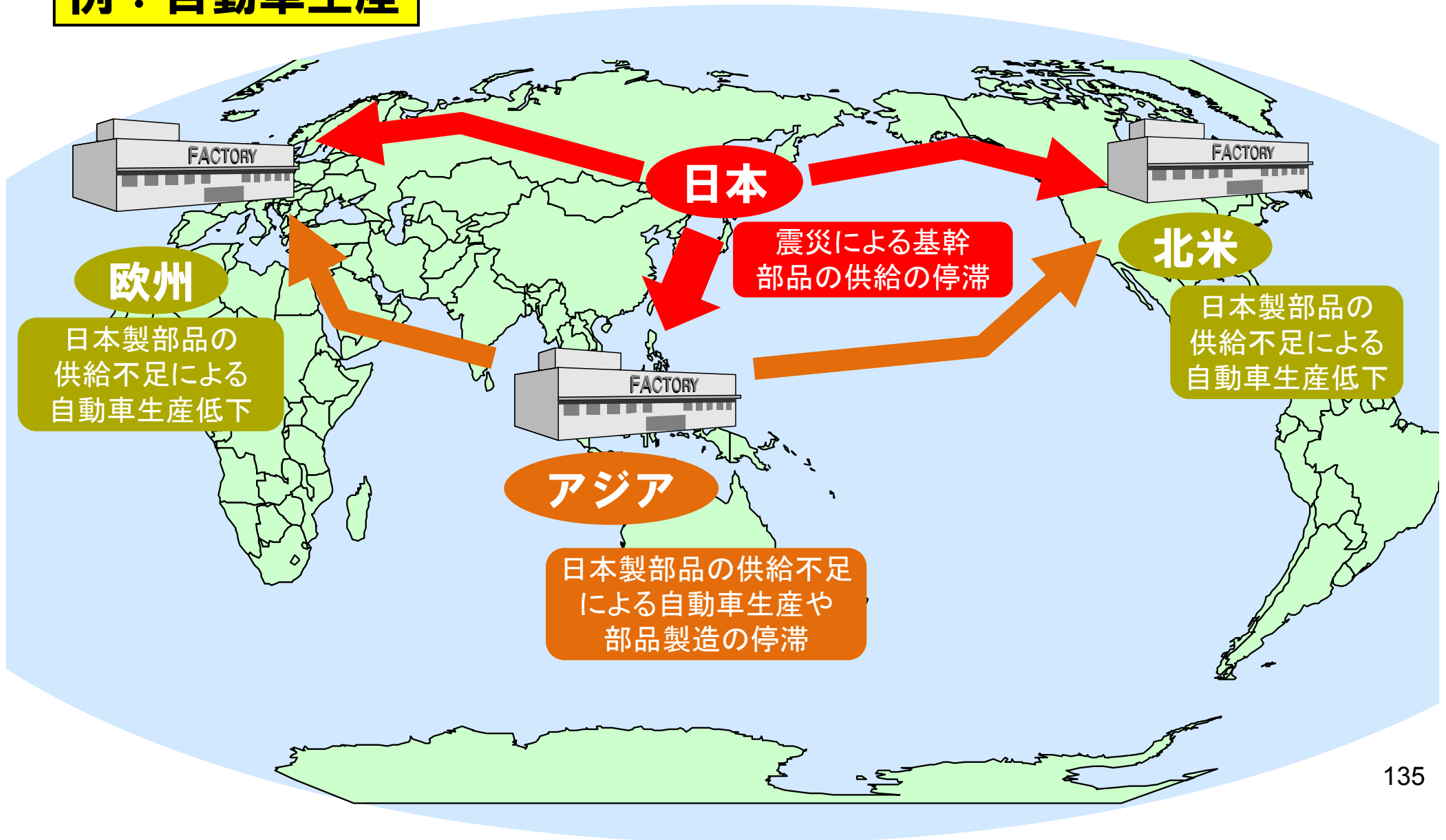


# 港湾の復旧について

- 八戸港～鹿島港(地方港湾含む)の公共岸壁373岸壁のうち、現時点で、約7割(275岸壁)が暫定利用可能。
- 産業・物流上、特に重要な港湾施設は、概ね2年以内での復旧を目指す。
- 湾口防波堤等は、まちづくりや産業活動に極力支障が生じないように、概ね5年以内での復旧を進める。



## 例：自動車生産



## 震災、世界の企業に影響 日本製部品、代替利かず

〔平成23年3月24日 日本経済新聞(朝刊) 9面より〕

- ・仏プジョーシトロエングループ(PSA)はディーゼルエンジン生産に支障。
- ・工場によっては最大60%のエンジン生産に影響。

## 車生産 回復手探り、部品不足 世界に影響

〔平成23年4月6日 日本経済新聞(朝刊) 1面より〕

- ・部品調達の停滞が世界の自動車メーカーの「サプライチェーン」を寸断。
- ・米国では米ゼネラル・モーターズ(GM)など主要5社が減産。
- ・韓国のルノーサムスン自動車は減産幅を20%に引き上げ。

## 米クライスラーも減産 日本からの部品不足で

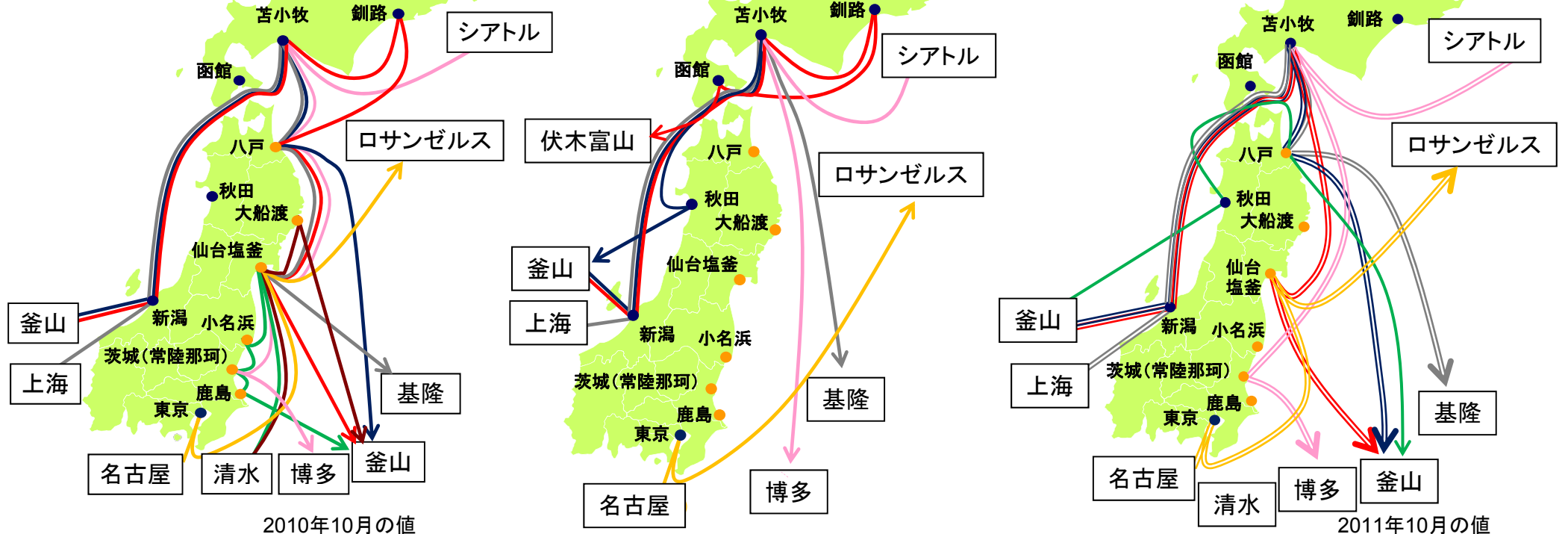
〔平成23年4月7日 日本経済新聞(夕刊) 2面より〕

- ・米クライスラーは、メキシコとカナダの2工場が減産。
- ・ビッグスリー(米自動車大手3社)がすべて減産を迫られることに。

# 外貿定期コンテナ航路の回復状況

※運搬事業者ヒアリングをもとに国土交通省港湾局作成  
 ※平成23年貨物データは港湾管理者からのヒアリングによる速報値

地震発生前 → 震災後1カ月(4月11日) → 1月23日現在の回復状況



貨物量: 11,872TEU/月  
 航路便数: 6.5便/週

(一時、寄港がゼロに)

貨物量: 5,296TEU/月  
 航路便数: 3.5便/週

- ・東北地方太平洋側港湾の被災により被災港湾に寄港する外貿コンテナ航路が休止
- ・東北地方と京浜港を結ぶ内航フィーダー航路も休止

- ・東日本地域の国際コンテナ貨物の釜山港等への流出
- ・京浜港の地盤沈下

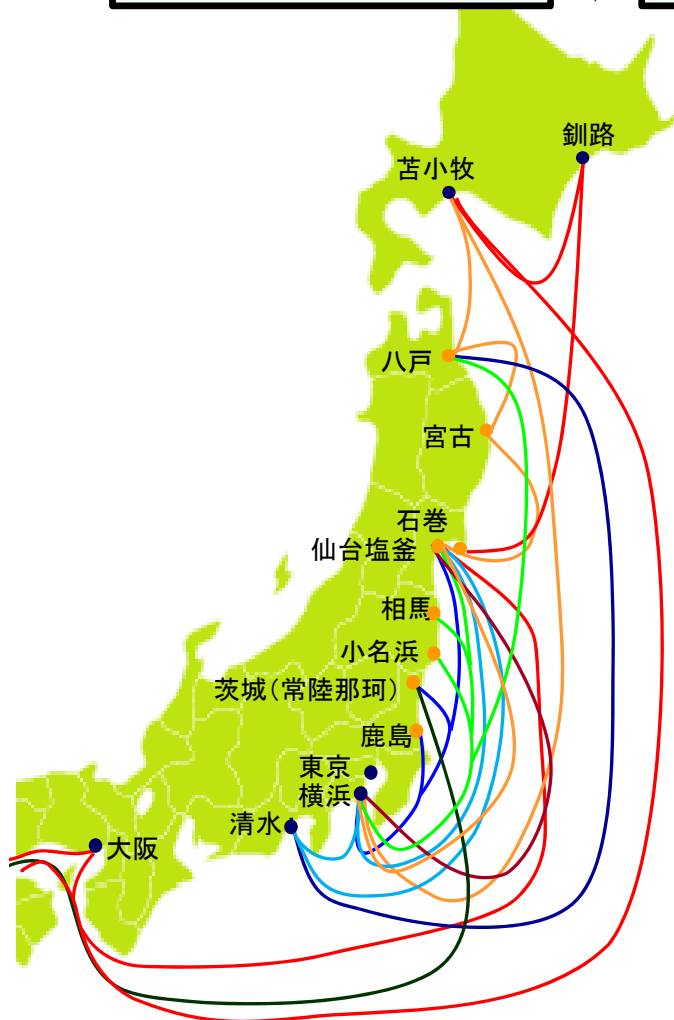
コンテナ港湾の機能回復が遅れると、日本の産業・経済全体に大きな影響が及ぶため、被災港湾の早期復旧が重要

# 内貿定期コンテナ航路の回復状況

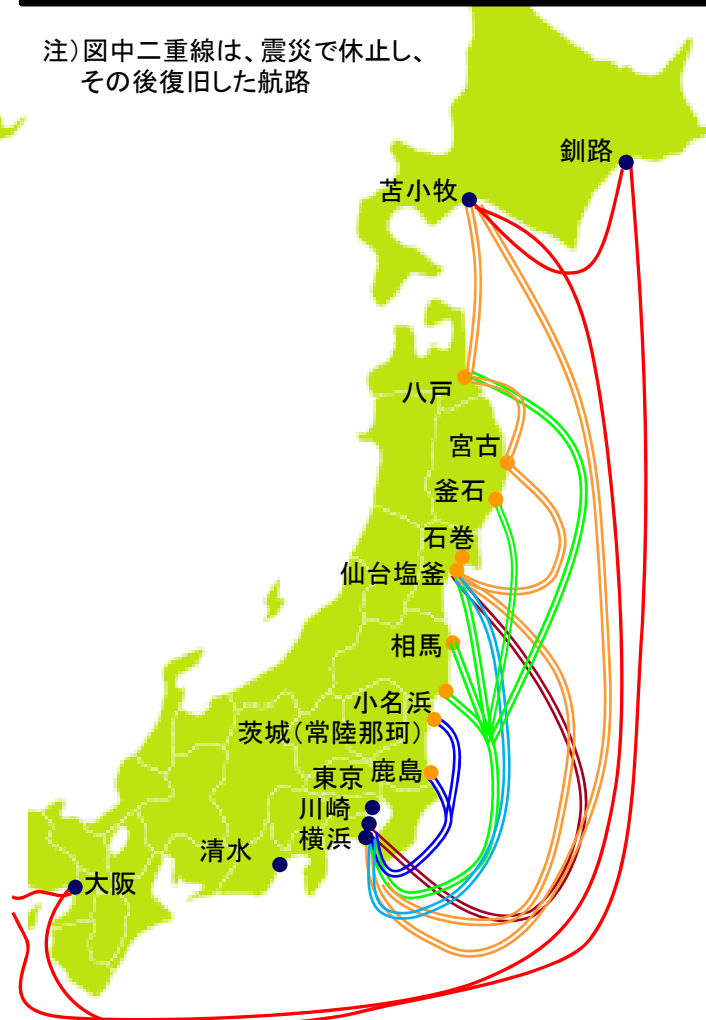
地震発生前

震災後1カ月(平成23年4月11日)

平成24年1月23日現在の回復状況



注) 図中二重線は、震災で休止し、その後復旧した航路



貨物量は平成22年10月の値

貨物量: 11,279TEU/月  
航路便数: 12.5便/週

(一時、被災港湾への寄港がゼロに)

貨物量は平成23年10月の値

貨物量: 10,185TEU/月  
航路便数: 11便/週

※運搬事業者ヒアリングをもとに国土交通省港湾局作成  
※平成23年貨物データは港湾管理者からのヒアリングによる速報値

# 内航定期フェリー航路の回復状況

- 東日本大震災発生1ヶ月後、内航定期フェリー航路は、5航路中1航路が復旧※(ただし、旅客以外の輸送)。
- 平成23年7月中旬には、5航路全てが運行再開している。

※5航路中1航路は、震災後も平常通り運行している

## 【東北地方太平洋沖地震発生前】

航路番号	便数(便/日)	船社	航路
①	16	津軽海峡フェリー㈱ 共栄運輸㈱ 北日本海運㈱	青森/函館
②	4	川崎近海汽船㈱	八戸/苫小牧
③	1	太平洋フェリー㈱	仙台塩釜/苫小牧
④	0.5	"	仙台塩釜/名古屋
⑤	2	商船三井フェリー㈱	茨城(大洗)/苫小牧

## 【震災後1ヵ月(平成23年4月11日)】

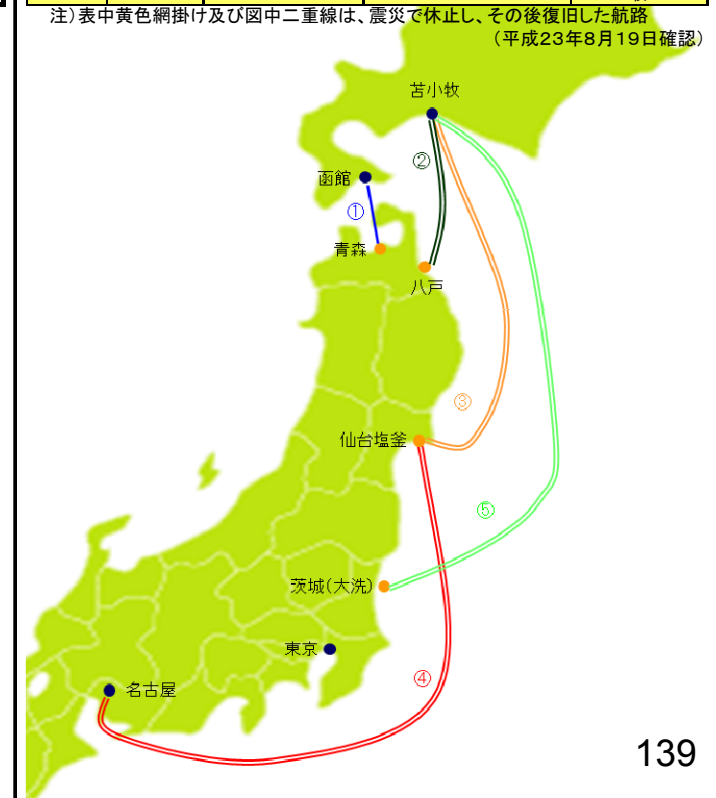
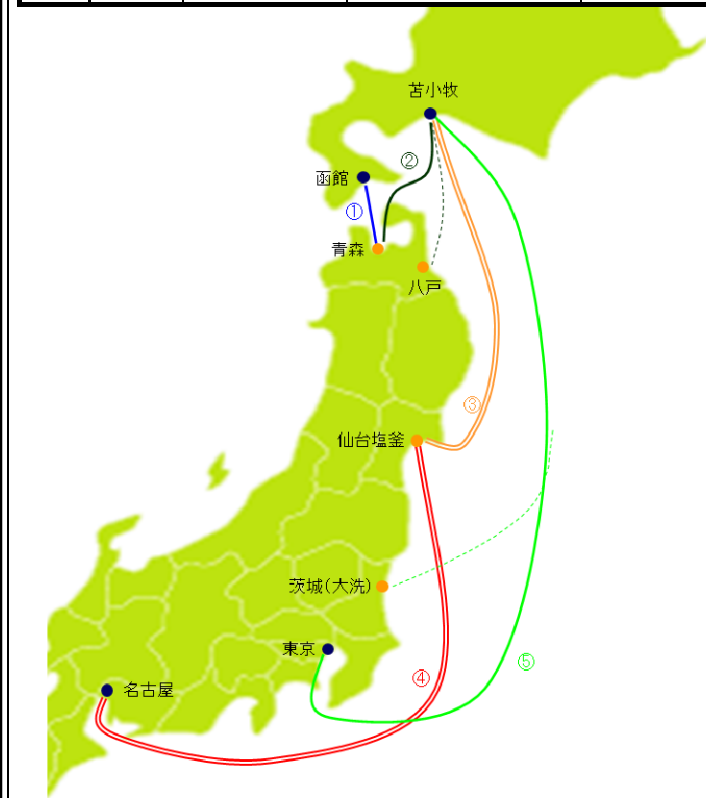
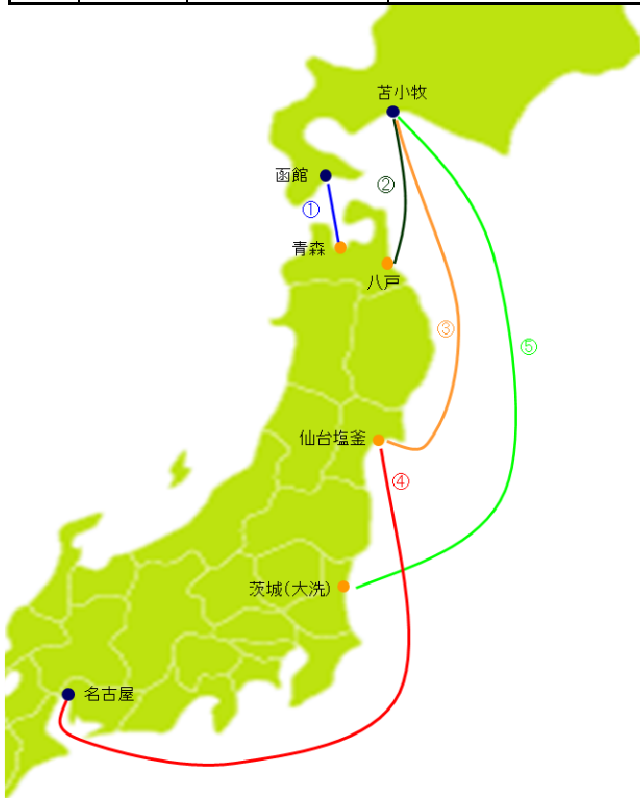
航路番号	便数(便/日)	船社	現況	航路
①	16	津軽海峡フェリー㈱ 共栄運輸㈱ 北日本海運㈱	平常通り運航	青森/函館
②	4	川崎近海汽船㈱	寄港港を八戸から青森に代替して運航	青森/苫小牧
③	0.5	太平洋フェリー㈱	旅客以外を輸送	仙台塩釜/苫小牧
④	0.5	"	旅客以外を輸送	名古屋/仙台塩釜
⑤	1	商船三井フェリー㈱	貨物車両輸送のみ寄港港を茨城から東京に代替して運航	東京/苫小牧

## 【現在(全航路復旧)】

※赤字は被災港湾、青字は代替港湾

航路番号	便数(便/日)	船社	現況	航路
①	16	津軽海峡フェリー㈱ 共栄運輸㈱ 北日本海運㈱	平常通り運航	青森/函館
②	4	川崎近海汽船㈱	7/11より運行再開	八戸/苫小牧
③	1	太平洋フェリー㈱	4/11より物資のみ輸送再開 4/28より旅客輸送再開	仙台塩釜/苫小牧
④	0.5	"	4/11より物資のみ輸送再開 6/6から通常運行	仙台塩釜/名古屋
⑤	2	商船三井フェリー㈱	6/6より旅客輸送再開	茨城(大洗)/苫小牧

注)表中黄色網掛け及び図中二重線は、震災で休止し、その後復旧した航路(平成23年8月19日確認)





# 内航定期RORO※船航路の回復状況

○ 東日本大震災発生1ヶ月後、内航定期RORO船航路は、7航路中2航路が復旧(ただし、便数の削減等なされている)。  
 ○ 平成23年5月末までには7航路全てが復旧。

## 【東北地方太平洋沖地震発生前】

航路番号	便数	船社	航路
①	2便/日	川崎近海汽船(株) 近海郵船物流(株)	苫小牧～茨城(常陸那珂)
②	1便/日	川崎近海汽船(株)	釧路～茨城(日立)
③	3便/週	川崎近海汽船	茨城(常陸那珂)～北九州
④	4便/週	栗林商船	苫小牧～釧路～仙台塩釜～東京～大阪～名古屋
⑤	2便/週	プリンス海運	川崎～苫小牧～八戸
⑥	9便/週	フジトランスコーポレーション	名古屋～仙台塩釜～苫小牧～八戸
⑦	1便/2日	トヨフジ海運 フジトランスコーポレーション	田原～名古屋～横浜～川崎～仙台塩釜～釜石

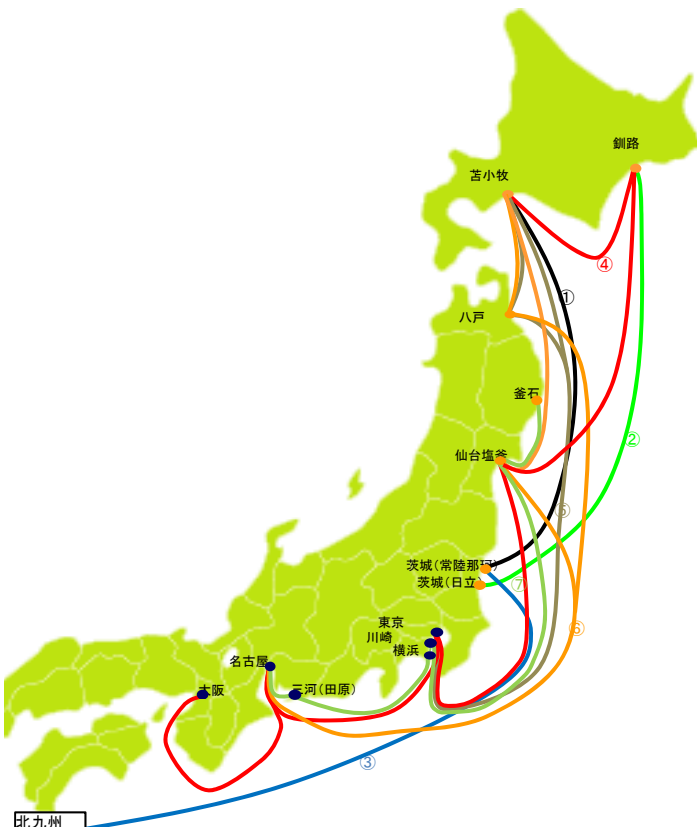
## 【震災後1カ月(平成23年4月11日)】

航路番号	便数	船社	現況	航路
①	1便/日	川崎近海汽船(株) 近海郵船物流(株)	復旧済み	苫小牧～茨城(常陸那珂)
②	2便/3日	川崎近海汽船(株)	寄港地を茨城(日立)から東京に代替して運航	釧路～東京
③	3便/週	川崎近海汽船	寄港地を茨城(常陸那珂)から川崎に代替して運航	川崎～北九州
④	4便/週	栗林商船	仙台塩釜港を抜港	苫小牧～釧路～東京～大阪～名古屋
⑤	1便/4日	プリンス海運	完成自動車の物流は停滞 重機等の輸送が増加	川崎～苫小牧～八戸
⑥	1便/2日	フジトランス コーポレーション	仙台塩釜港は復旧済み 八戸港はスポット輸送	名古屋～仙台塩釜～苫小牧～(八戸)
⑦	-	トヨフジ海運 フジトランスコーポレーション	休止中	-

## 【現在(全航路復旧)】

※赤字は被災港湾、青字は代替港湾

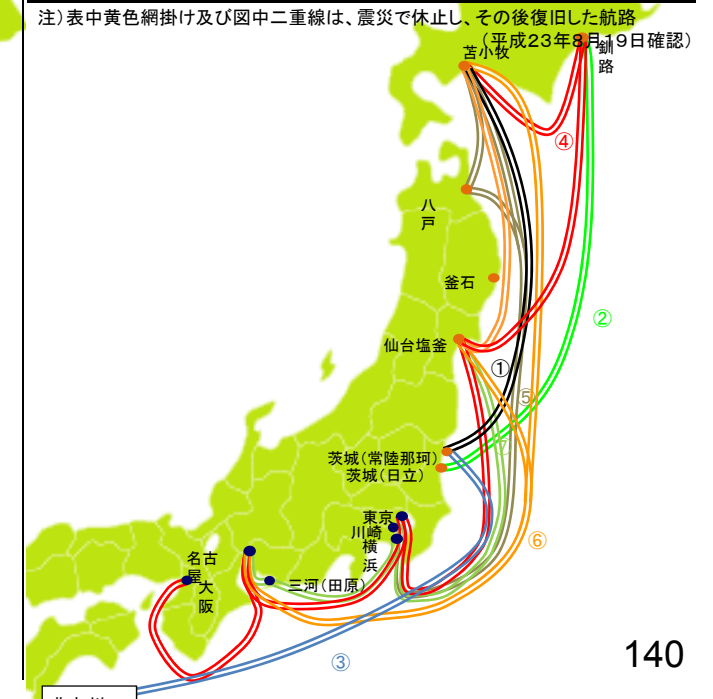
航路番号	便数	船社	現況	航路
①	2便/日	川崎近海汽船(株) 近海郵船物流(株)	4/5より再開	苫小牧～茨城(常陸那珂)
②	1便/日	川崎近海汽船(株)	5/25より再開	釧路～茨城(日立)
③	3便/週	川崎近海汽船	5/20復旧	常陸那珂～北九州
④	4便/週	栗林商船	4/24より復旧 (※当面、変則スケジュールで運航)	苫小牧～釧路～仙台塩釜～東京～大阪～名古屋
⑤	2便/週	プリンス海運	3/23に不定期で再開。 5/19から通常の便数 (2便/週)で運航。	川崎～苫小牧～八戸
⑥	1便/2日	フジトランス コーポレーション	4/16より復旧 八戸港はスポット輸送	名古屋～仙台塩釜～苫小牧～(八戸)
⑦	1～1.5便/週	トヨフジ海運 フジトランスコーポレーション	釜石港を抜港して 4/21より復旧済み	田原～名古屋～横浜～川崎～仙台塩釜



運航事業者からのヒアリングより国土交通省港湾局作成



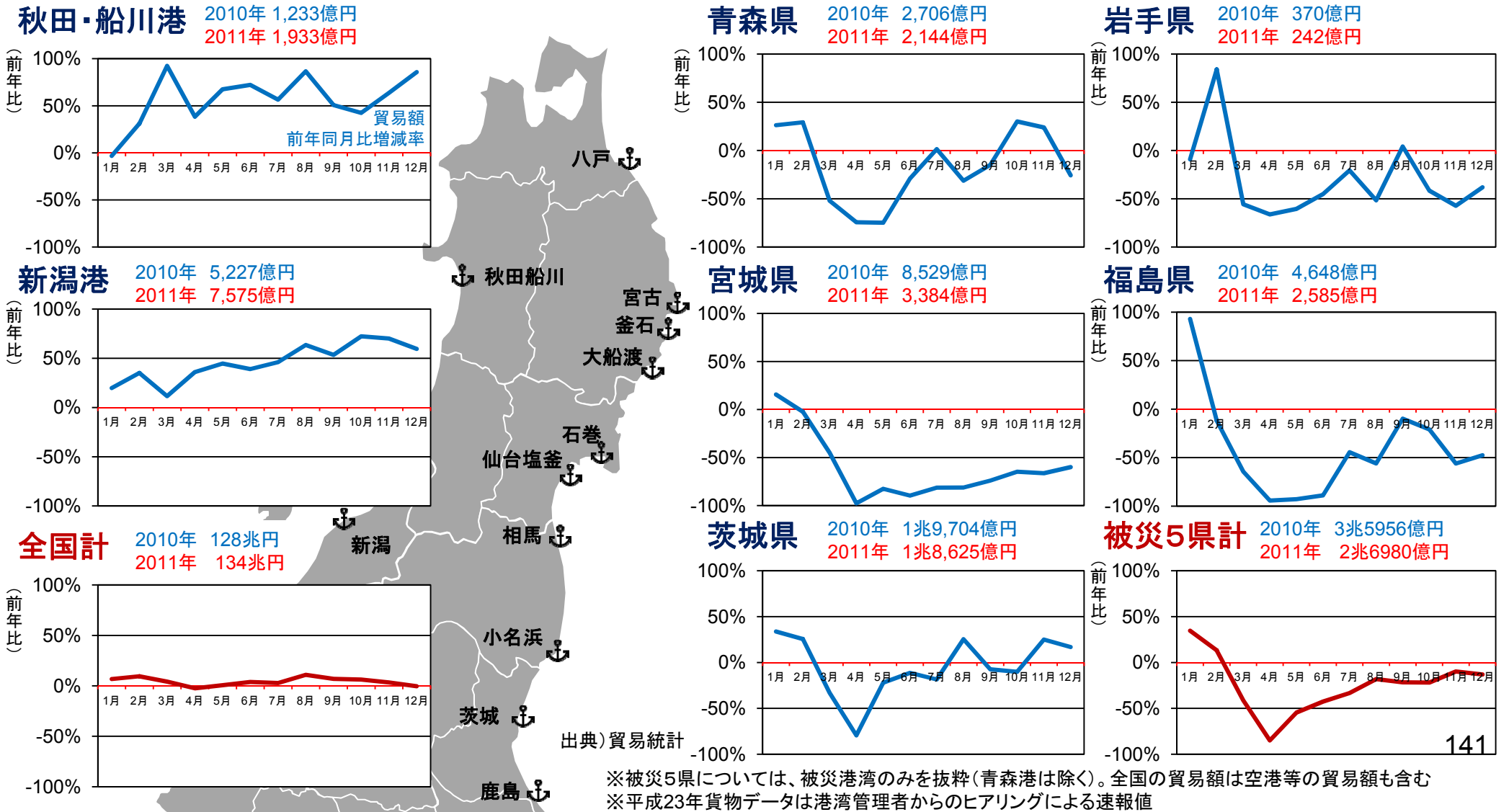
※RORO船[Roll on roll off ship]: 貨物をトラックやフォークリフトで積み卸す(水平荷役方式)のために、船尾や船側にゲートを有する船舶



注) 表中黄色網掛け及び図中二重線は、震災で休止し、その後復旧した航路(平成23年8月9日確認)

# 海上貿易額の推移(対前年比)

○ 震災により港湾施設や背後企業に大きな被害が生じたことから、東北地方太平洋側港湾における貿易額は大幅に減少(平成23年4月の貿易額対前年比8割減)。港湾施設の復旧や背後企業の生産活動の再開とあわせて、7月頃より貿易額は回復傾向。  
 ○ 一方、被災した太平洋側港湾に代わって日本海側各港を活用した代替輸送が行われたことから、秋田港、新潟港等の貿易額は大幅に増加。



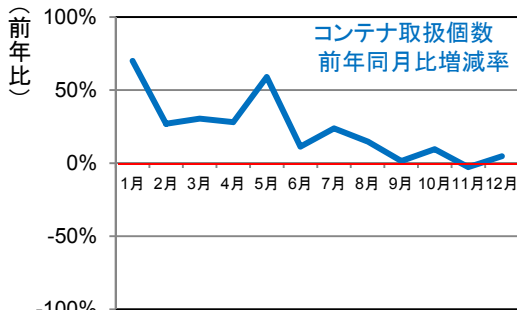


# 外貿コンテナ取扱個数の推移(対前年比)

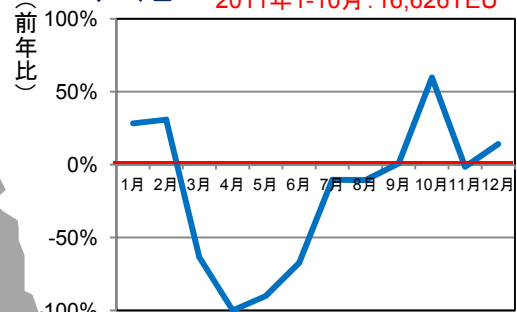
○ 東日本大震災後、平成23年4月の東北地方太平洋側港湾での外貿コンテナ貨物取扱量は皆減。5月に八戸港へ外貿コンテナ船の寄港が再開されたのを皮切りに、9月に茨城港、仙台塩釜港への寄港が再開され、徐々に貨物量は回復しつつある。

○ 一方、被災した太平洋側港湾に代わって日本海側各港を活用した代替輸送が行われたことから、秋田港、新潟港等の外貿コンテナ貨物量は大幅に増加。

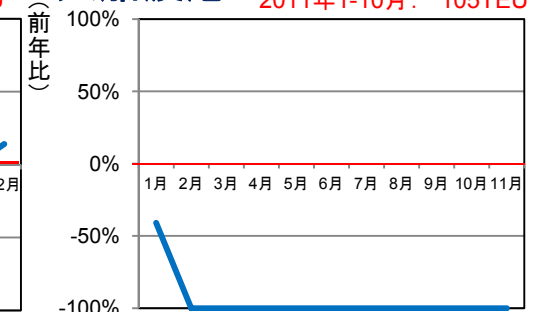
**秋田港** 2010年1-10月: 40,550TEU  
2011年1-10月: 50,793TEU



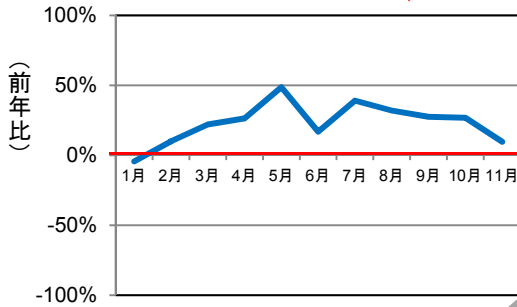
**八戸港** 2010年1-10月: 23,529TEU  
2011年1-10月: 16,626TEU



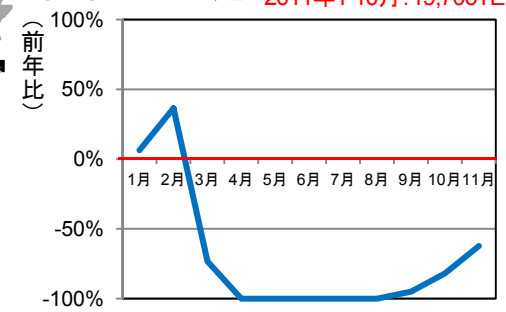
**大船渡港** 2010年1-10月: 2,273TEU  
2011年1-10月: 105TEU



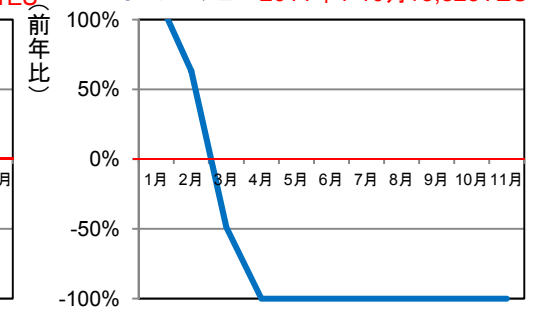
**新潟港** 2010年1-10月: 134,045TEU  
2011年1-10月: 167,432TEU



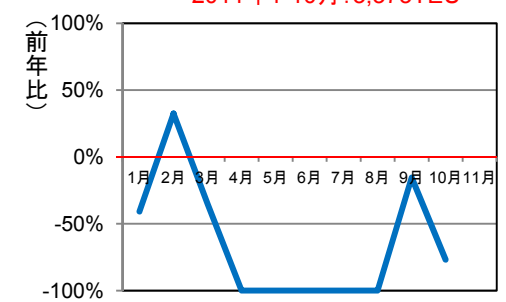
**仙台塩釜港** 2010年1-10月: 75,916TEU  
2011年1-10月: 19,706TEU



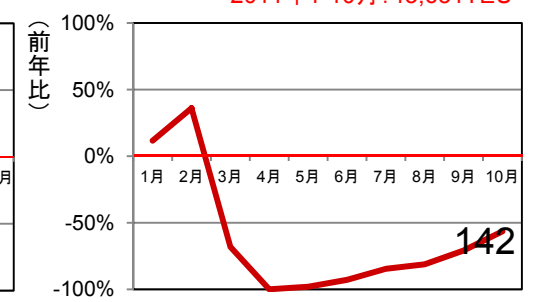
**小名浜港** 2010年1-10月: 8,489TEU  
2011年1-10月: 3,823TEU



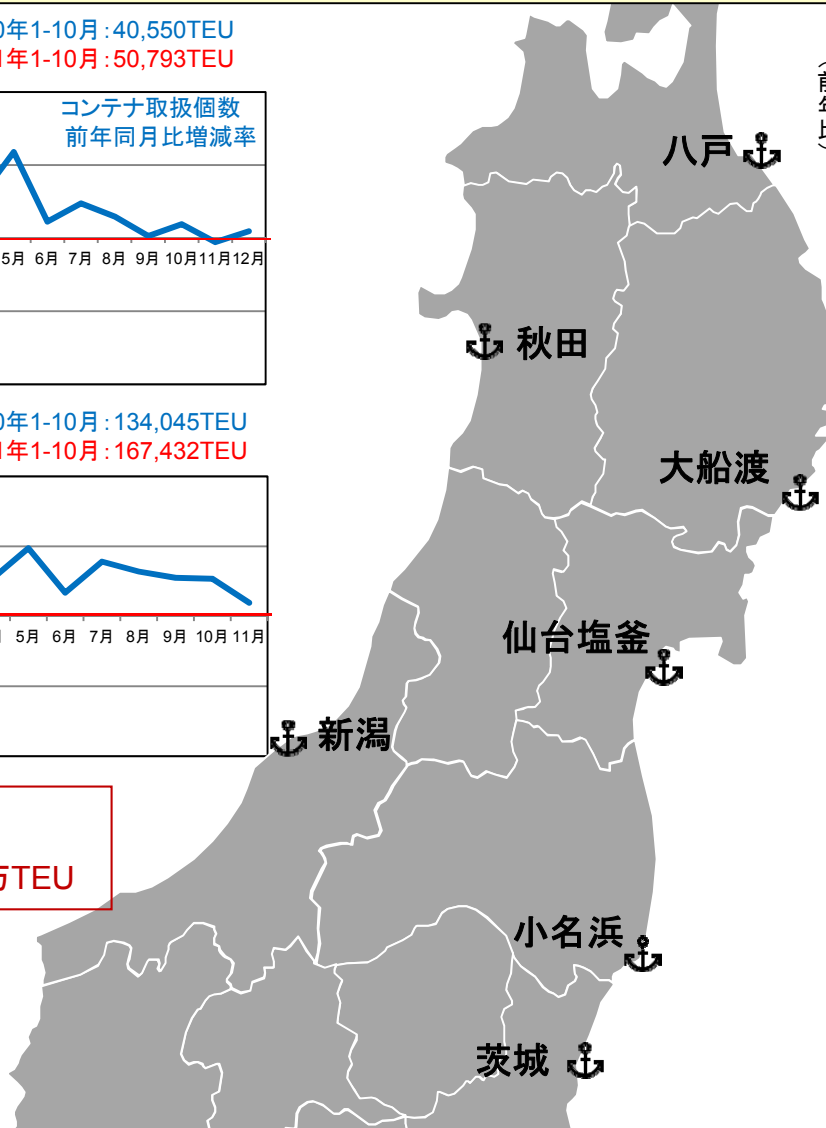
**茨城港** 2010年1-10月: 9,357TEU  
2011年1-10月: 3,373TEU



**被災港計** 2010年1-10月: 119,564TEU  
2011年1-10月: 43,631TEU



**全国計**  
2010年: 1,686万TEU



# 東日本大震災後の鉱工業生産指数の推移

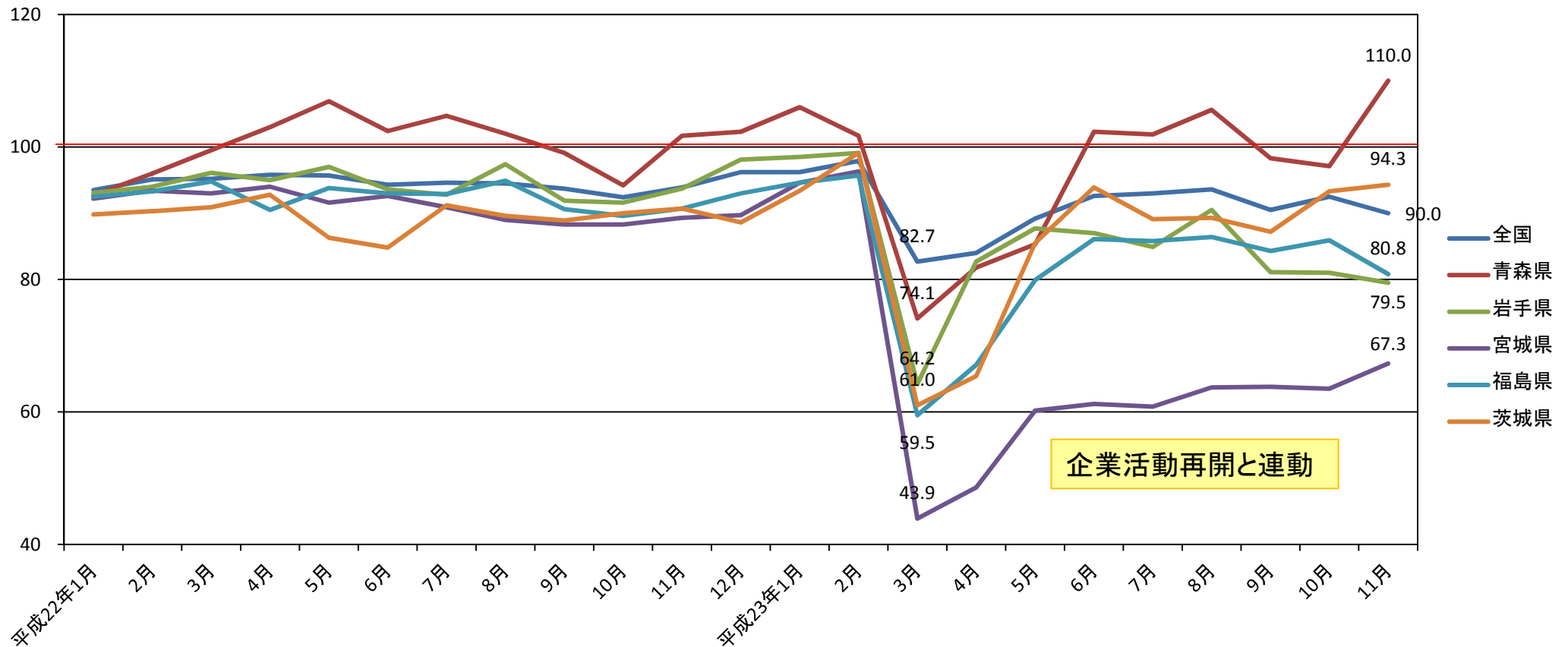
東北地方の鉱工業生産額は、震災以前の水準の9割程度に回復している。

## 東北地域の鉱工業生産指数の推移

	平成22年												平成23年										
	平成22年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全国	93.5	95.1	95.2	95.8	95.7	94.3	94.6	94.5	93.7	92.4	93.9	96.2	96.2	97.9	82.7	84.0	89.2	92.6	93.0	93.6	90.5	92.5	90.0
青森県	92.7	96.0	99.5	103.0	106.9	102.4	104.7	102.0	99.1	94.2	101.7	102.3	106.0	101.7	74.1	81.8	85.3	102.3	101.9	105.6	98.3	97.1	110.0
岩手県	93.1	94.0	96.1	95.0	97.0	93.6	92.8	97.4	91.9	91.6	93.7	98.1	98.5	99.1	64.2	82.7	87.7	87.0	84.9	90.5	81.1	81.0	79.5
宮城県	92.2	93.4	93.0	94.0	91.6	92.6	90.9	89.0	88.3	88.3	89.3	89.7	94.6	96.3	43.9	48.6	60.2	61.2	60.8	63.7	63.8	63.5	67.3
福島県	92.5	93.3	94.8	90.5	93.8	93.0	92.9	94.9	90.6	89.6	90.7	93.0	94.6	95.7	59.5	67.1	79.9	86.1	85.8	86.4	84.3	85.9	80.8
茨城県	89.8	90.3	90.9	92.8	86.3	84.8	91.2	89.6	88.9	90.0	90.7	88.6	93.4	99.1	61.0	65.4	85.5	93.9	89.1	89.3	87.2	93.3	94.3

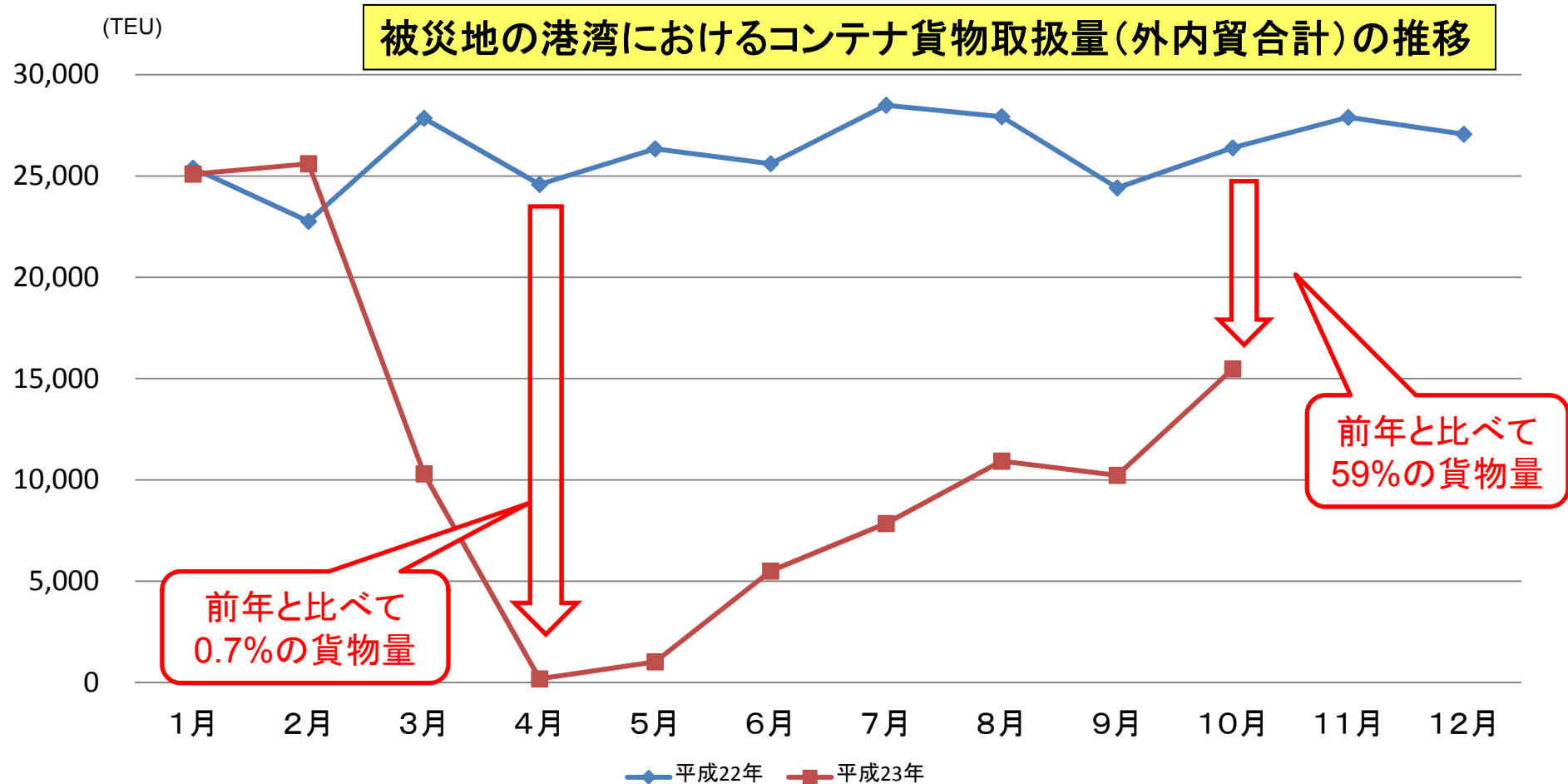
※季節調整済指数、平成17年=100

出典：各都道府県公表資料より国土交通省港湾局作成



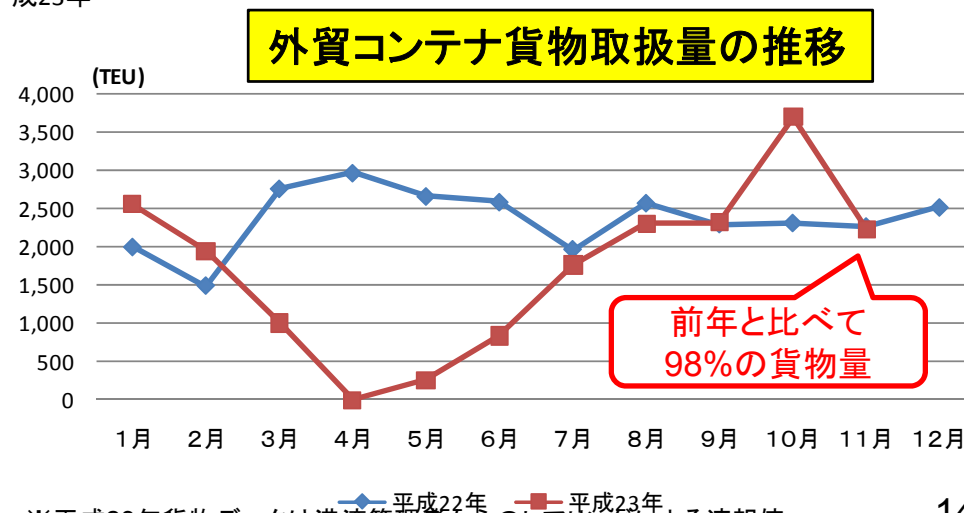
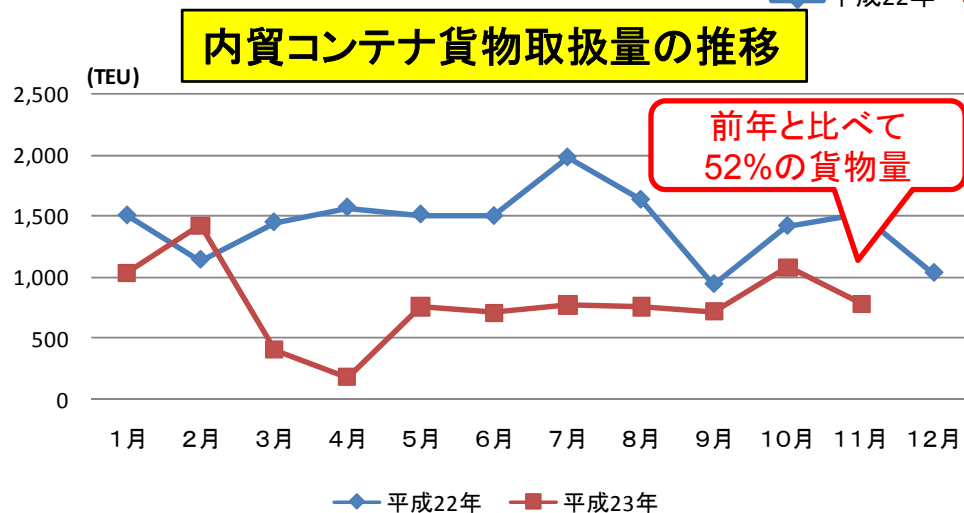
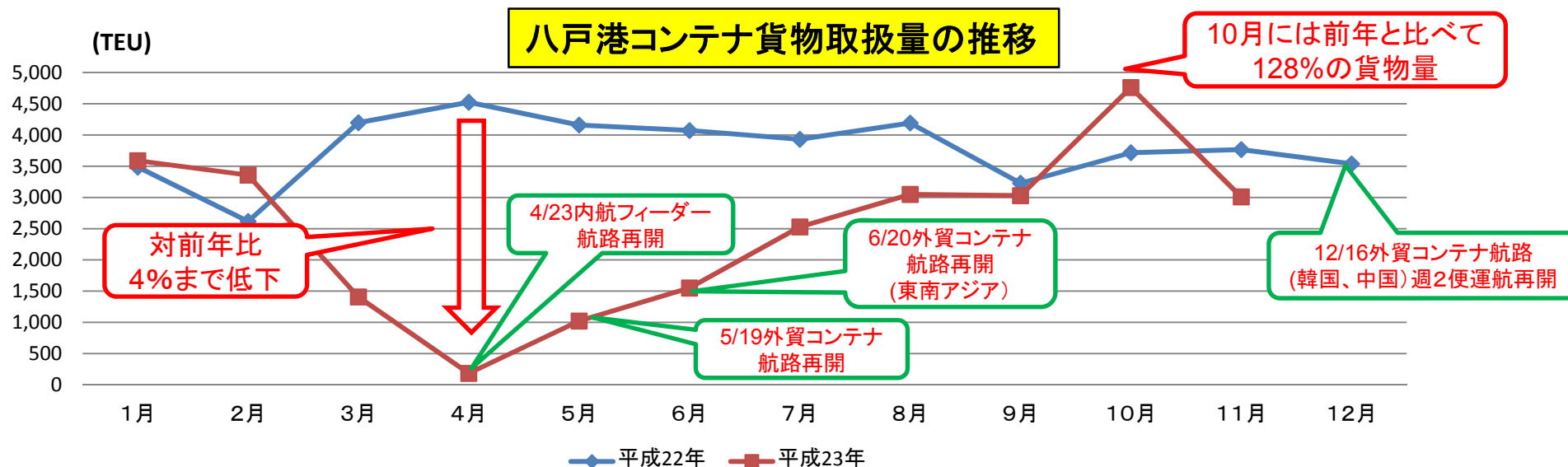
# 被災地の港湾の利用状況(コンテナ貨物)

○被災地の港湾におけるコンテナ貨物取扱量(外内貿合計)をみると、震災直後の4月には、対前年比0.7%に低下したが、その後、停止していたコンテナ航路が順次再開し、昨年10月の取扱量は、対前年比59%まで回復した。



# 八戸港の利用状況(コンテナ貨物)

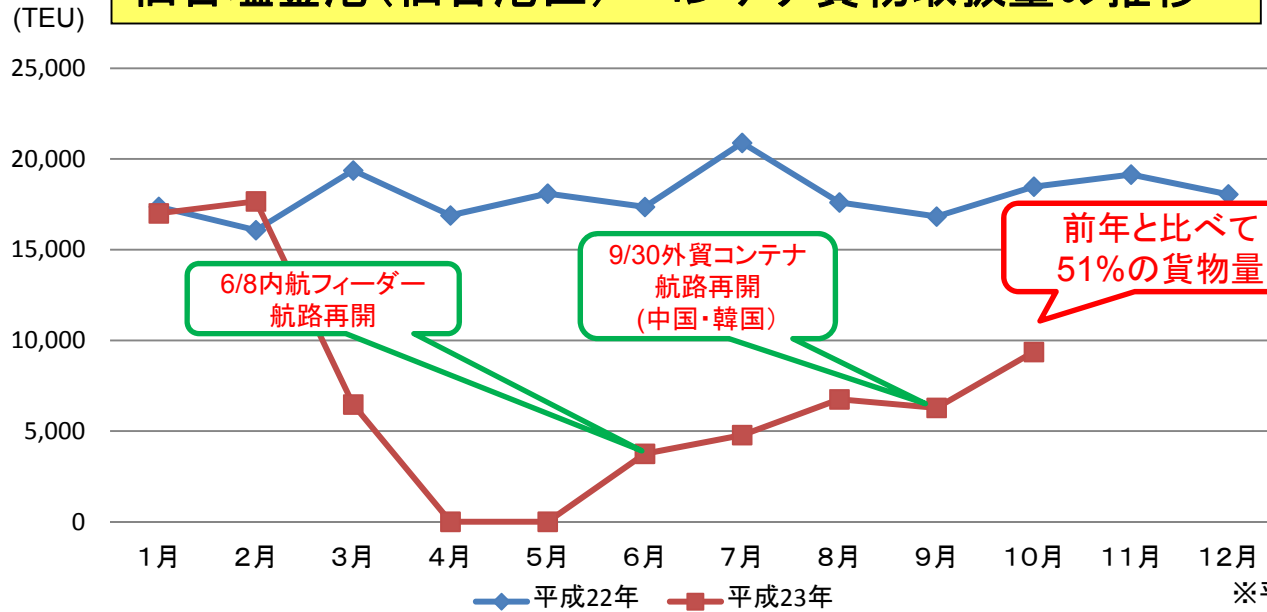
○被災により全コンテナ航路が停止し、震災直後の4月のコンテナ貨物取扱量は対前年比4%まで低下したが、コンテナふ頭自体の被災を回避できたことから、4月23日以降、順次航路が再開し、10月には対前年比128%を記録した。



※平成23年貨物データは港湾管理者からのヒアリングによる速報値

# 仙台塩釜港(仙台港区)の利用状況(コンテナ貨物)

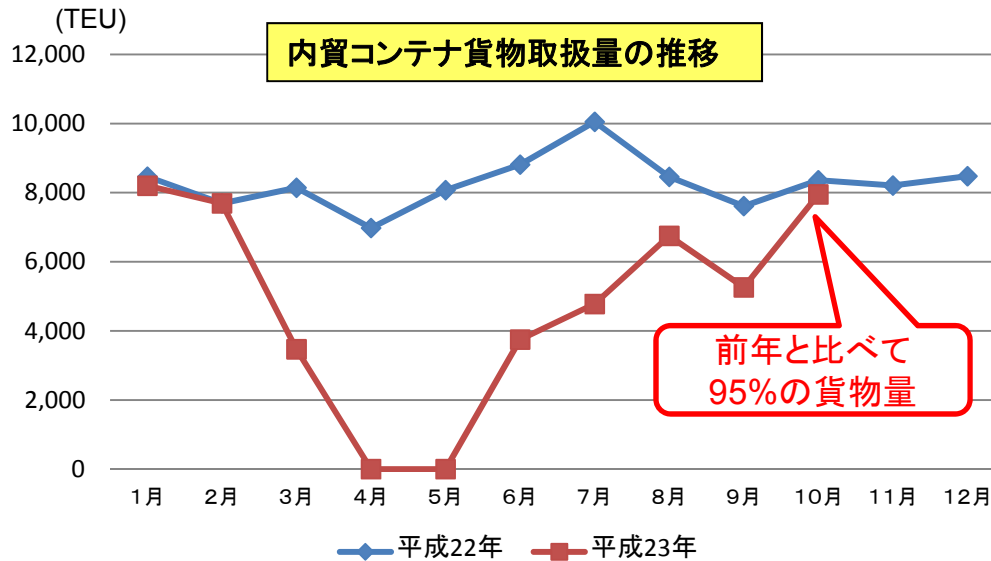
## 仙台塩釜港(仙台港区) コンテナ貨物取扱量の推移



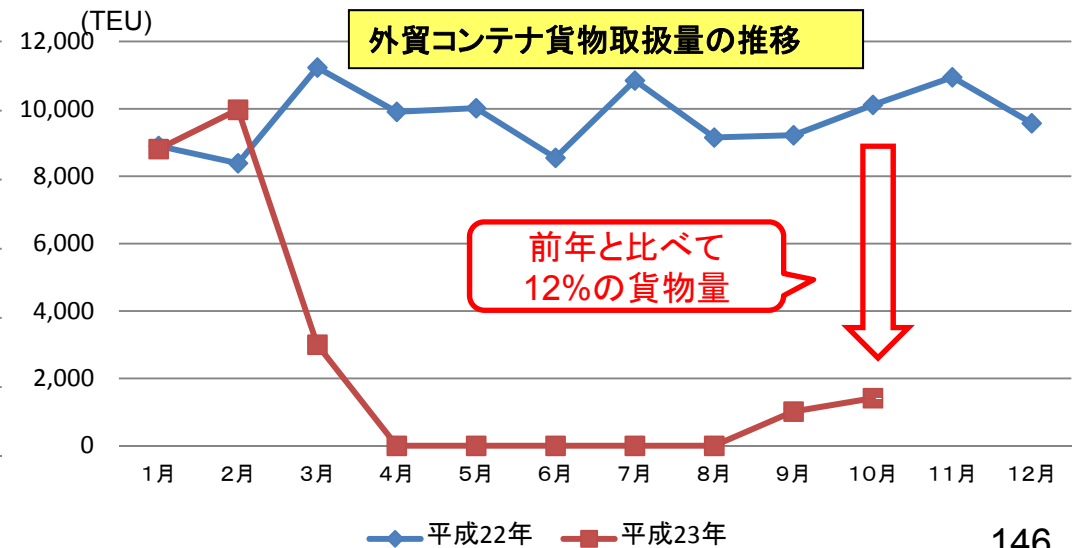
- コンテナ航路については、昨年6月から国内航路(内貿)が、昨年9月末から外国航路(外貿)が再開された。
- コンテナ貨物取扱量については、昨年10月末時点で内貿では前年比95%まで回復したのに対し、外貿ではコンテナふ頭の復旧に時間を要したことから前年比12%までの回復状況に留まっている。
- 本年1月の北米航路再開によって、物流・産業活動が活性化し、復興が加速化することが期待される。

※平成23年貨物データは港湾管理者からのヒアリングによる速報値

## 内貿コンテナ貨物取扱量の推移



## 外貿コンテナ貨物取扱量の推移

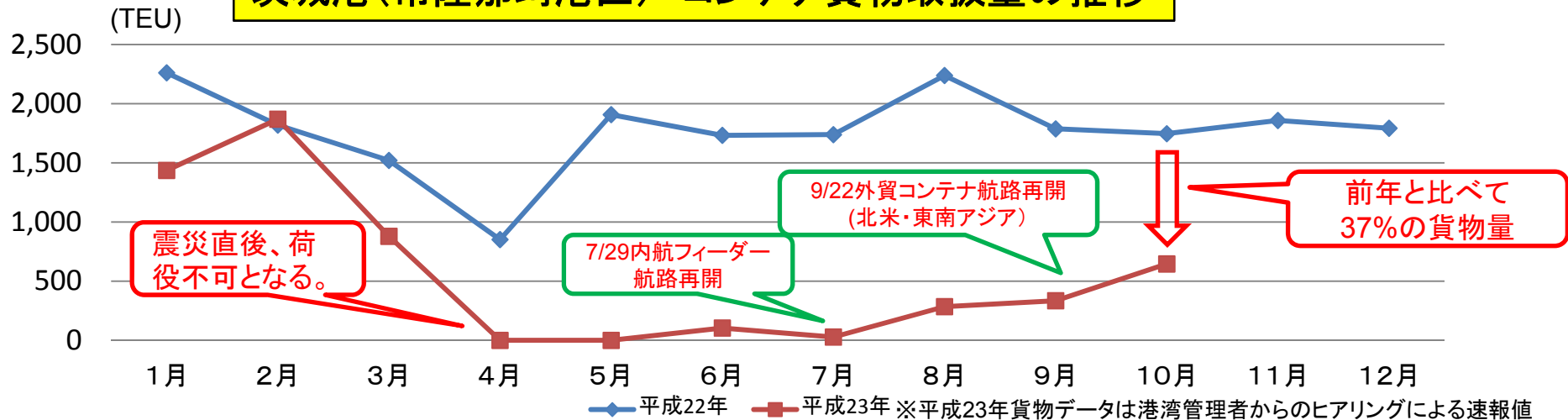




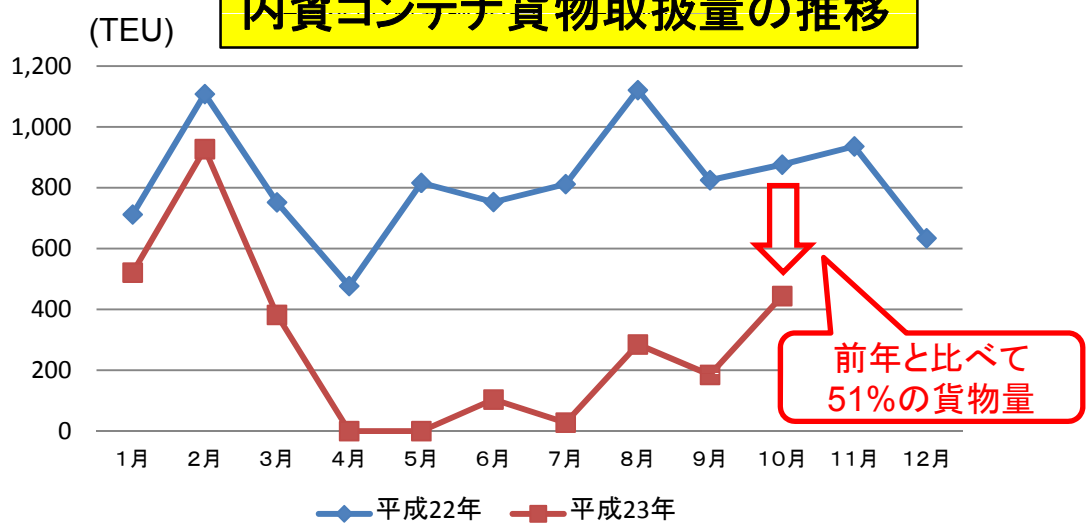
# 茨城港(常陸那珂港区)の利用状況(コンテナ貨物)

○被災により全てのコンテナ航路が停止したが、岸壁、荷役機械等の応急復旧に伴い、順次航路が再開し、昨年10月時点では対前年比37%の回復状況となっている。

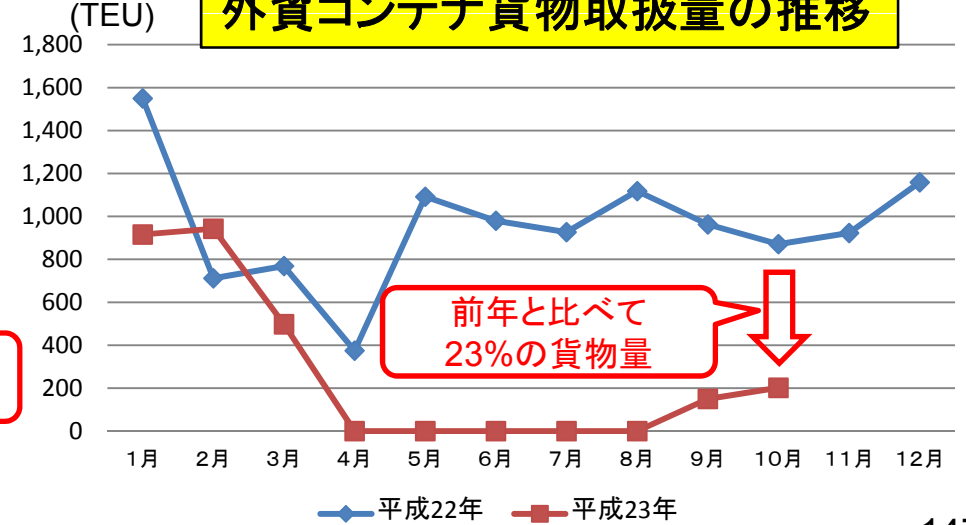
## 茨城港(常陸那珂港区) コンテナ貨物取扱量の推移



## 内貿コンテナ貨物取扱量の推移

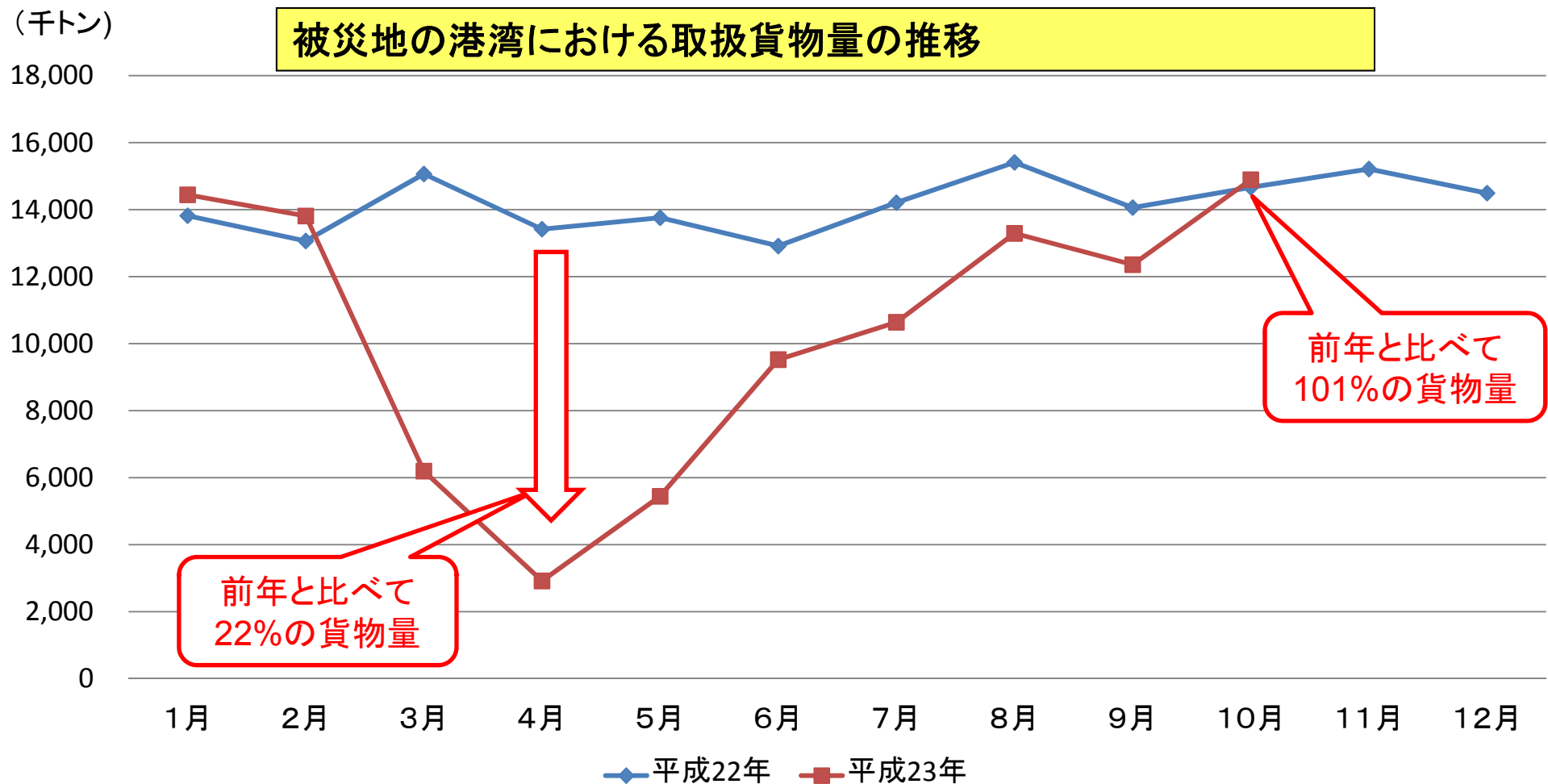


## 外貿コンテナ貨物取扱量の推移



# 被災地の港湾の利用状況(取扱貨物量)

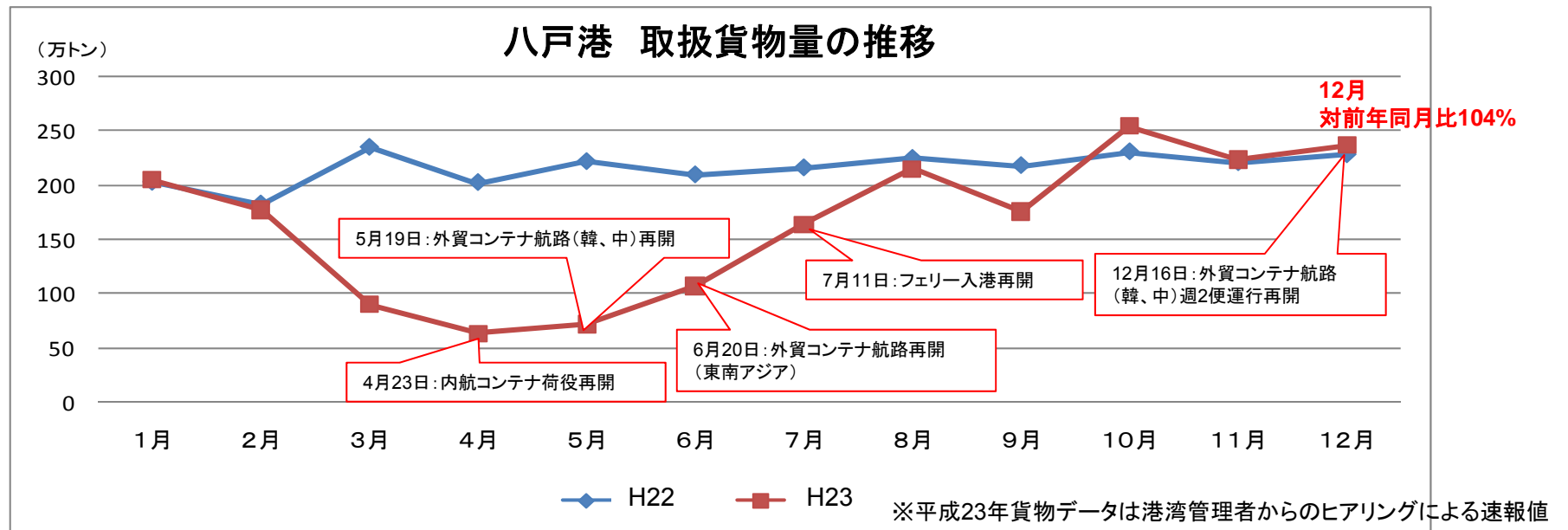
○被災地の港湾における取扱貨物量をみると、震災直後の4月には、対前年比22%に低下したが、その後、停止していた企業が再開するとともに、エネルギー関連貨物の大幅な増により、昨年10月の取扱量は、対前年比101%まで回復した。



※平成23年貨物データは港湾管理者からのヒアリングによる速報値

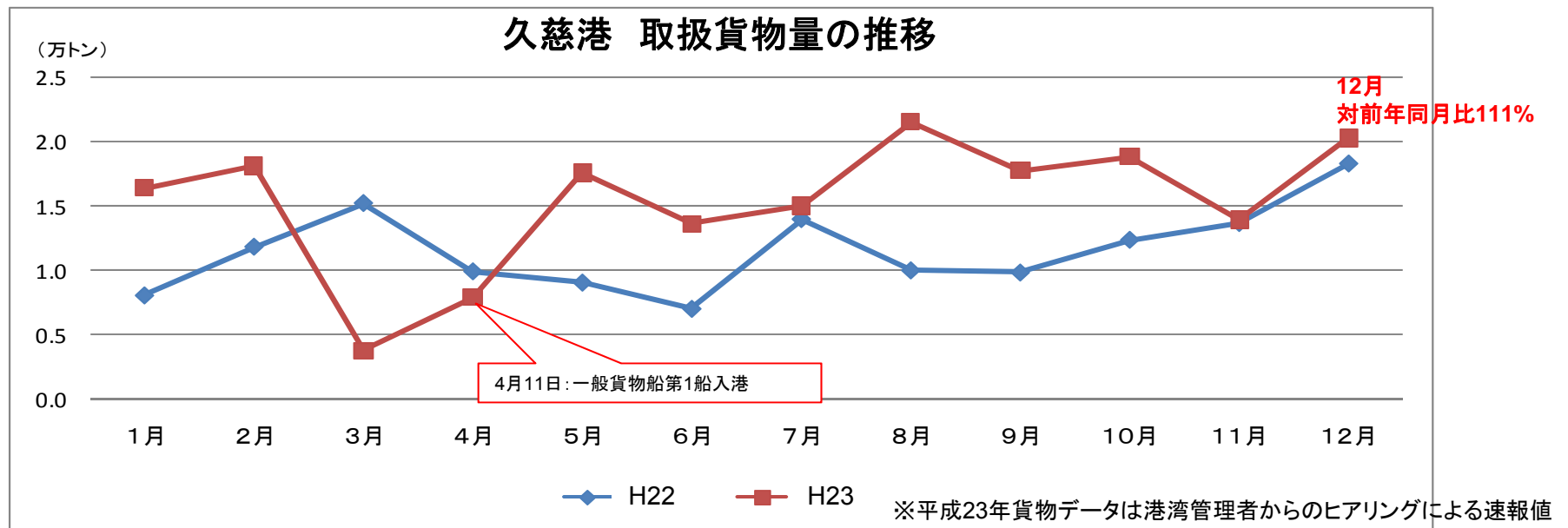
# 八戸港の利用状況(取扱貨物量)

- 震災のあった3月の港湾取扱貨物量は、対前年同月比38%まで低下。
- 港湾利用企業の生産活動の再開や港湾施設の復旧が進み、取扱貨物量は平成23年12月時点で約236万トﾝ(対前年同月比104%)。



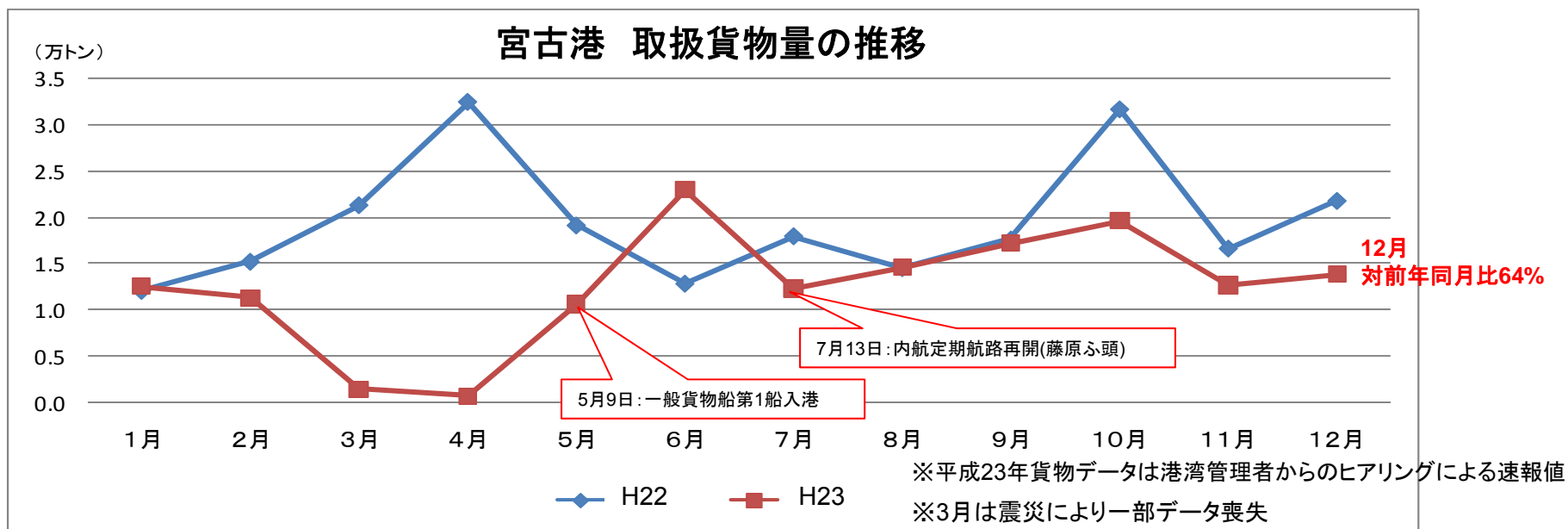
# 久慈港の利用状況(取扱貨物量)

- 震災のあった3月の港湾取扱貨物量は、対前年同月比25%まで低下。
- 他港と比較して被害が少なく、港湾利用企業の生産活動の再開や港湾施設の復旧が進み、取扱量は平成23年12月時点で約2万トﾝ(対前年同月比111%)。



# 宮古港の利用状況(取扱貨物量)

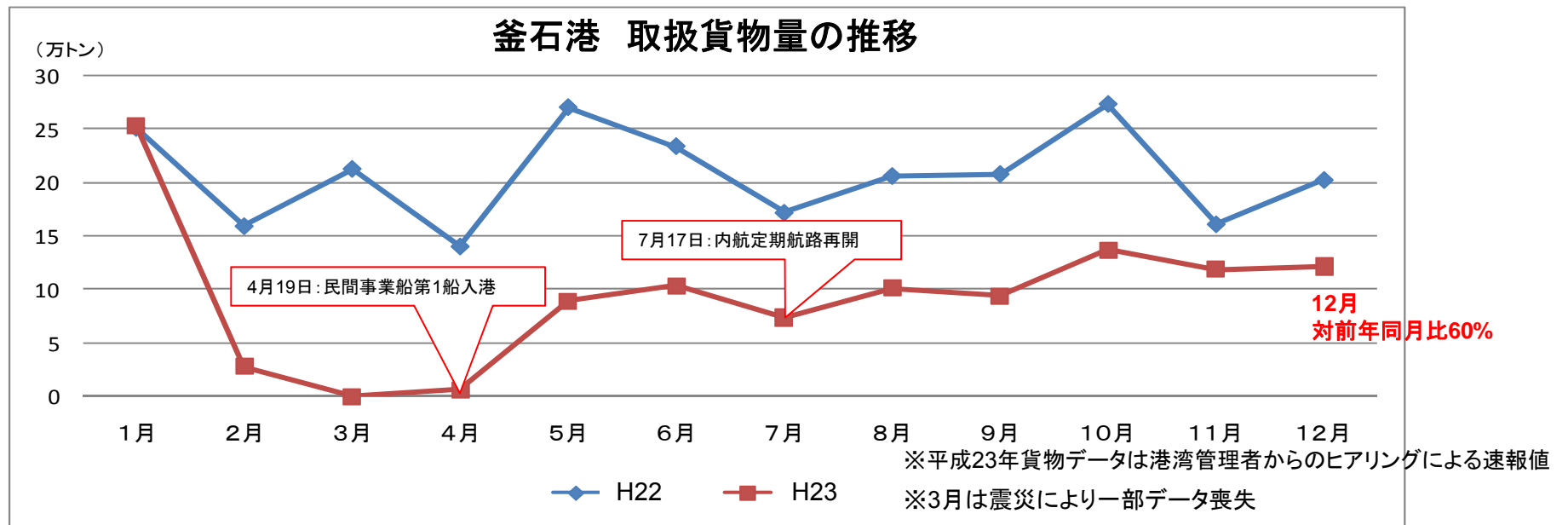
- 震災のあった翌4月の港湾取扱貨物量は、対前年同月比2%まで低下。
- 港湾利用企業の生産活動の再開や港湾施設の復旧により回復しつつあり、取扱貨物量は平成23年12月時点で約1.4万トﾝ(対前年同月比64%)。





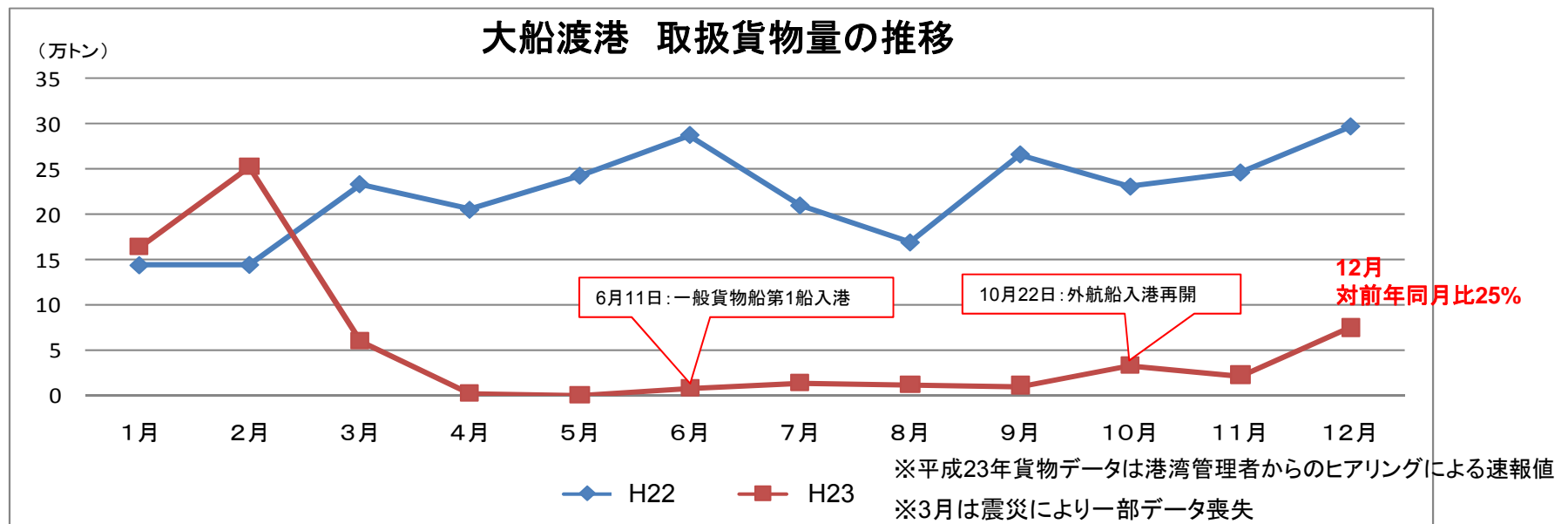
# 釜石港の利用状況(取扱貨物量)

- 震災のあった翌4月の港湾取扱貨物量は、対前年同月比5%まで低下。
- 港湾利用企業の生産活動の再開や港湾施設の復旧により回復しつつあり、取扱貨物量は平成23年12月時点で約12万トﾝ(対前年同月比60%)。



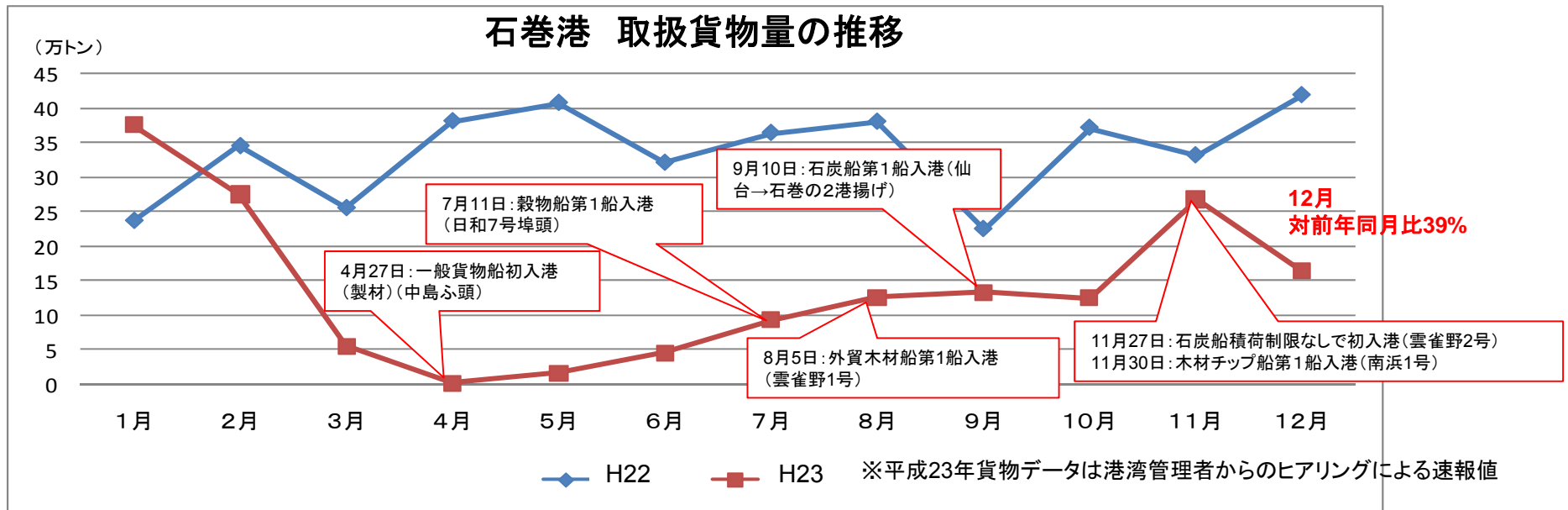
# 大船渡港の利用状況(取扱貨物量)

- 震災のあった翌4月の港湾取扱貨物量は、対前年同月比0.7%まで低下。
- 主な港湾利用企業であるセメント工場が11月に生産を再開するなど回復しつつあり、取扱貨物量は平成23年12月時点で約7.4万トン(対前年同月比25%)。



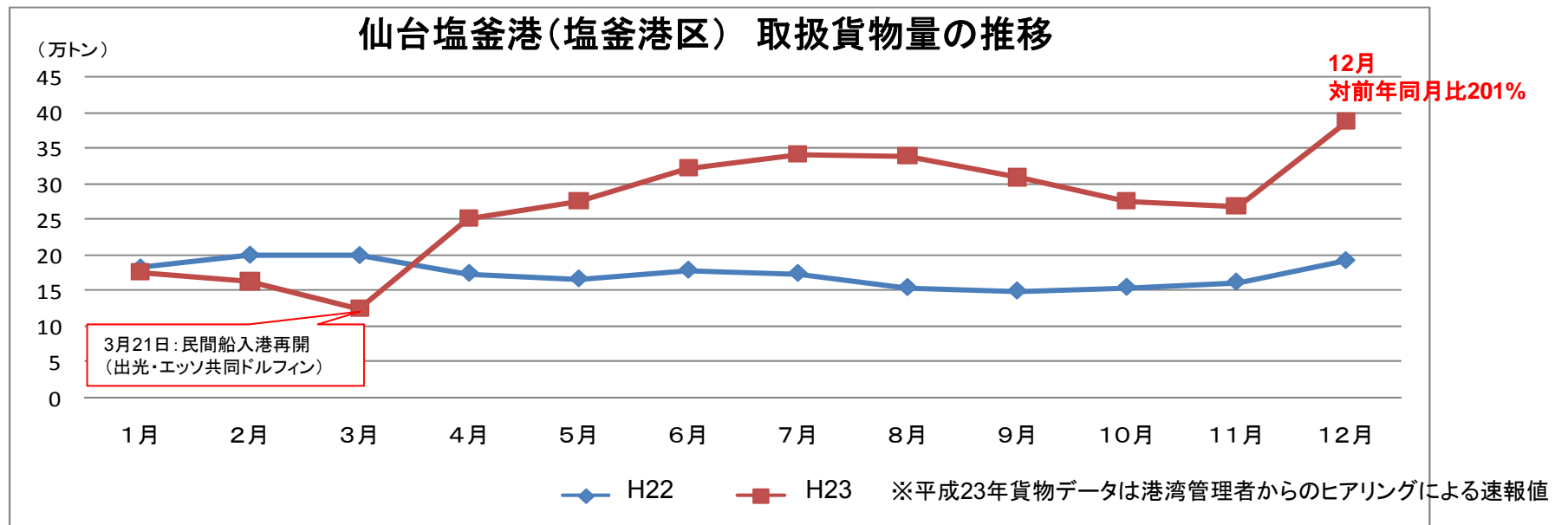
# 石巻港の利用状況(取扱貨物量)

- 石巻港の貨物取り扱い、平成23年4月1日の一般船利用以降、企業の生産再開や航路再開と共に回復傾向にあるが、主力の紙生産能力が震災前と比較して3割弱に留まっているため低調に推移している。
- 取扱貨物量は平成23年12月時点で約16万ト(対前年同月比39%)。



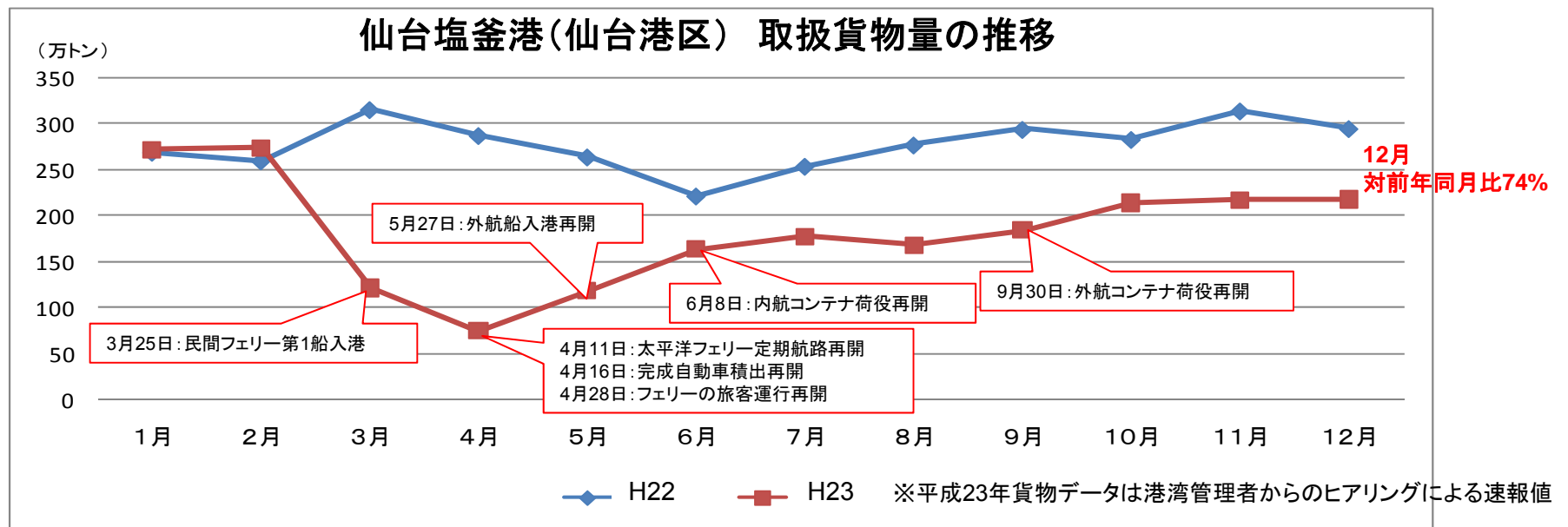
# 仙台塩釜港(塩釜港区)の利用状況(取扱貨物量)

- 震災のあった3月の港湾取扱貨物量は、対前年同月比63%まで低下。
- 他港と比較して港湾施設の被害が少なく、4月以降は対前年同月比を上回る実績で推移しており、取扱貨物量は平成23年12月時点で約39万ト(対前年同月比 201%)。



# 仙台塩釜港(仙台港区)の利用状況(取扱貨物量)

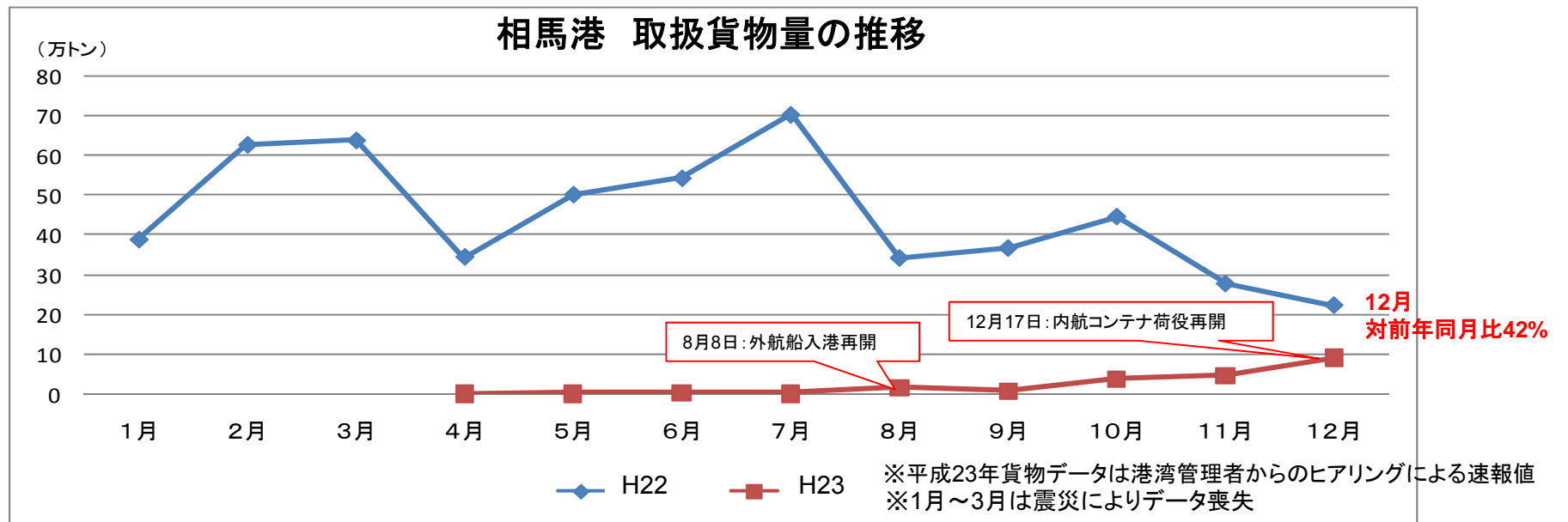
- 震災のあった3月の港湾取扱貨物量は、対前年同月比38%まで低下。
- 平成23年4月1日の一般船利用以降、企業の生産再開や航路再開とともに増加しており、取扱貨物量は平成23年12月時点で200万トン強(対前年同月比74%)まで回復。





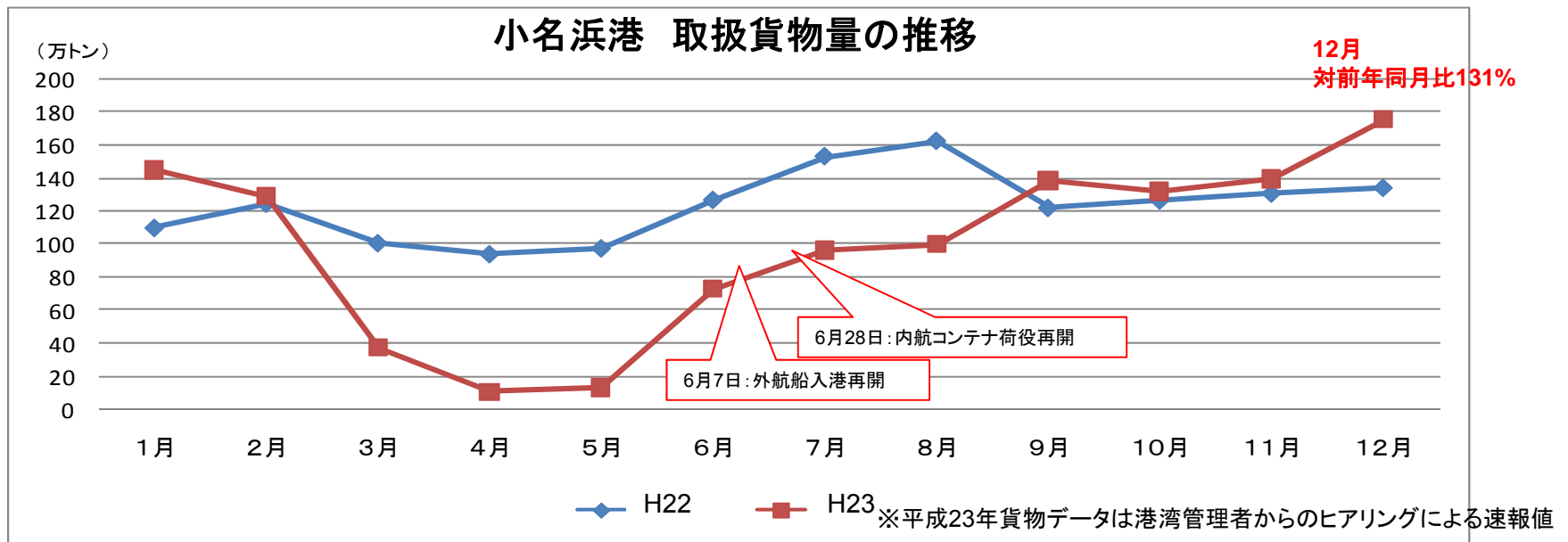
# 相馬港の利用状況(取扱貨物量)

- 震災のあった翌4月の港湾取扱貨物量は、対前年同月比0.4%まで低下。
- 主な港湾利用企業である火力発電所が12月に発電を再開、同じくして内航コンテナ荷役も再開するなど回復しつつあり、取扱貨物量は平成23年12月時点で約9万トン(対前年同月比42%)。



# 小名浜港の利用状況(取扱貨物量)

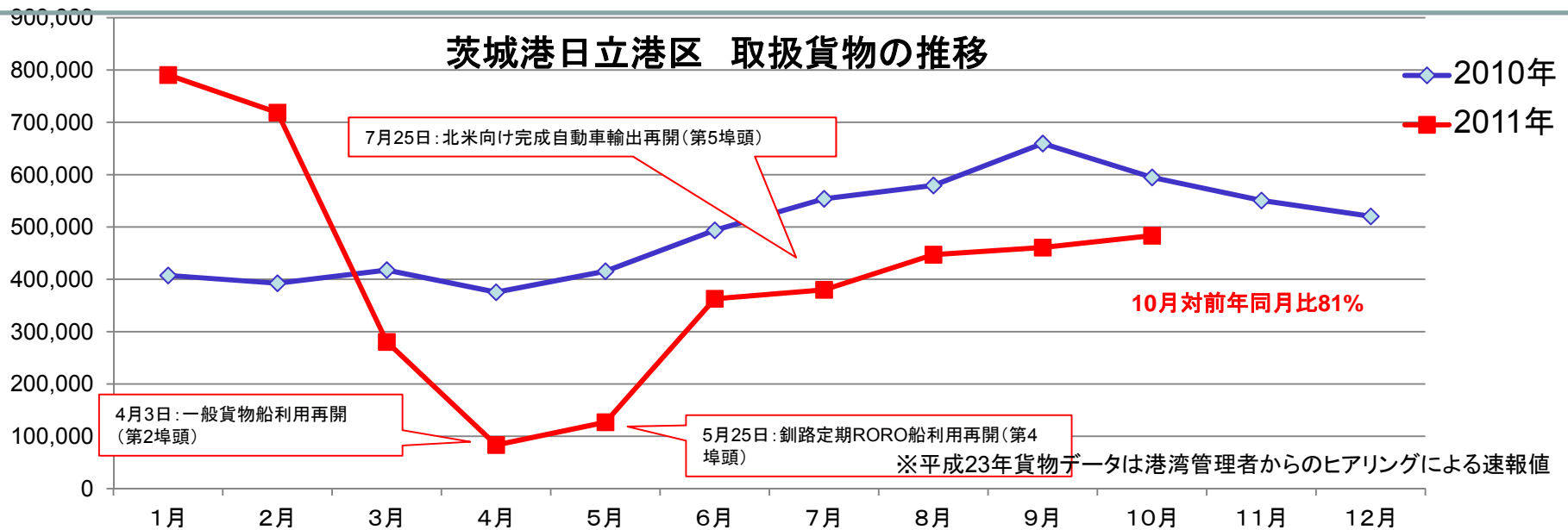
- 震災のあった3月の港湾取扱貨物量は、対前年同月比37%まで低下。
- 港湾利用企業の生産活動の再開や港湾施設の復旧が進み、取扱貨物量は平成23年12月時点で約176万トン(対前年同月比131%)を記録。



# 茨城港日立港区の利用状況(取扱貨物量)

○ 茨城港日立港区の貨物取り扱い、平成23年4月3日の一般船利用以降、企業の生産再開や航路再開と共に回復、主力の完成自動車及び釧路からの生乳等も震災前まで回復傾向にある。

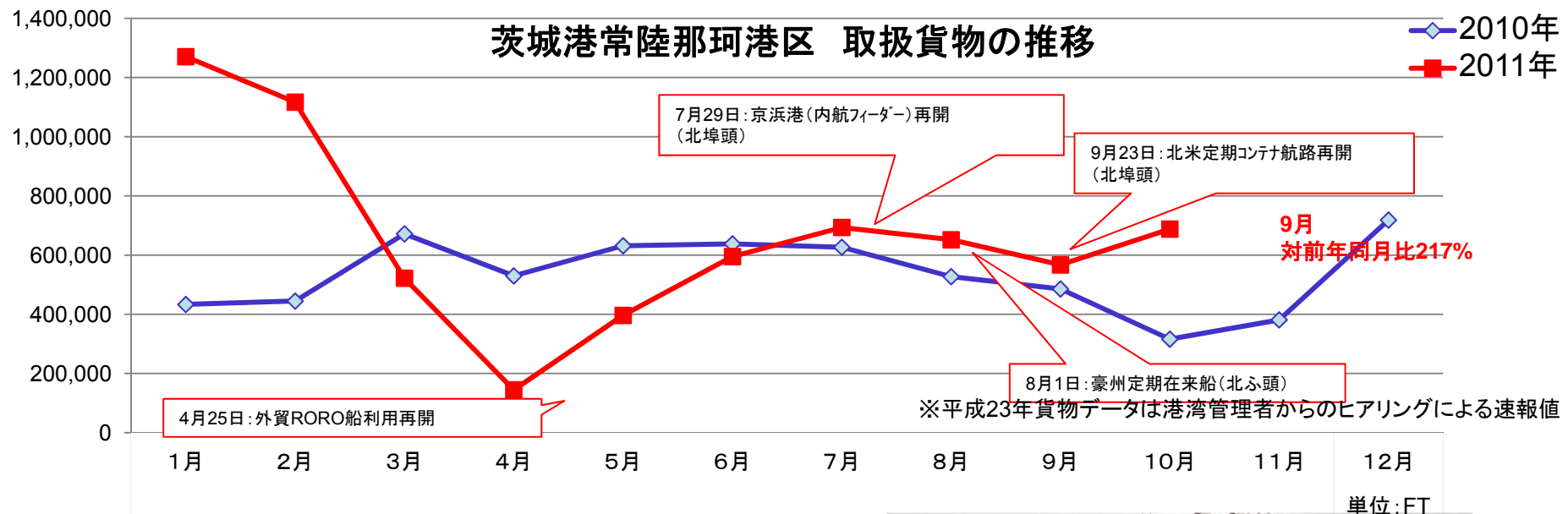
○ 取扱量は、平成23年10月時点で月70万ト弱(対前年同月比81%)



# 茨城港常陸那珂港区の利用状況(取扱貨物量)

○ 茨城港常陸那珂港区の貨物取り扱いは、平成23年4月25日の外貿RORO船利用再開以降、企業の生産再開や航路再開と共に回復、建設機械の需要増による推移している。

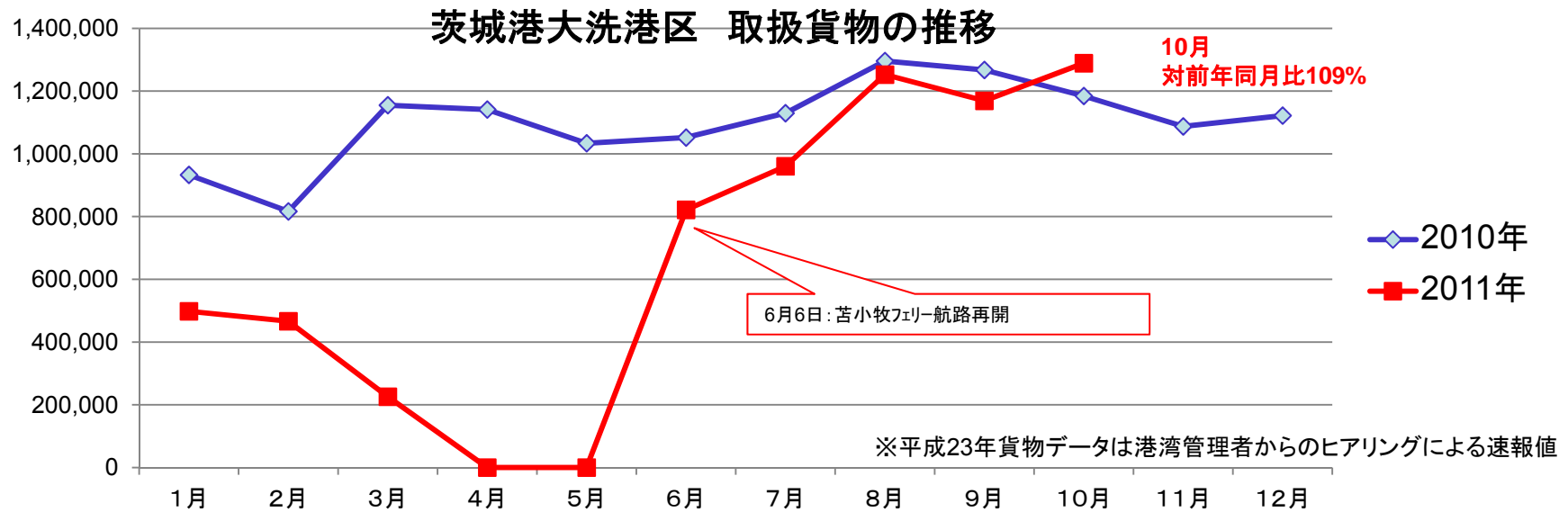
○ 取扱量は、平成23年10月時点で月70万ト弱(対前年同月比217%)





# 茨城港大洗港区の利用状況(取扱貨物量)

- 茨城港大洗港区の貨物取り扱い、平成23年6月6日の苫小牧フェリー-航路再開により震災前と同水準まで回復。
- 取扱量は、平成23年10月時点で月130万ト弱(対前年同月比109%)

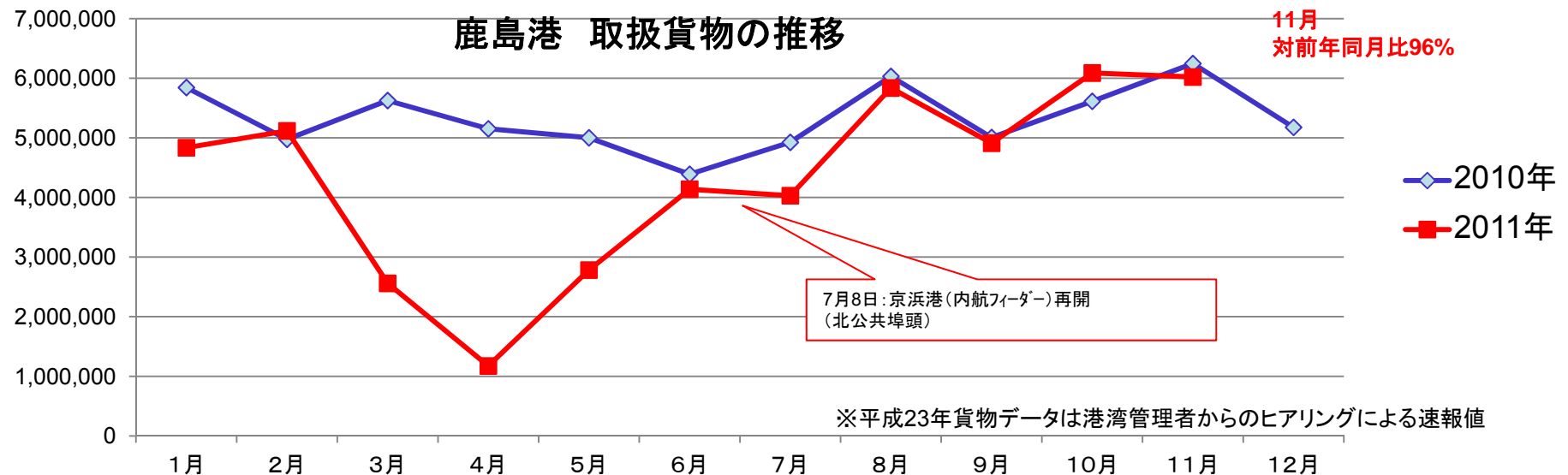




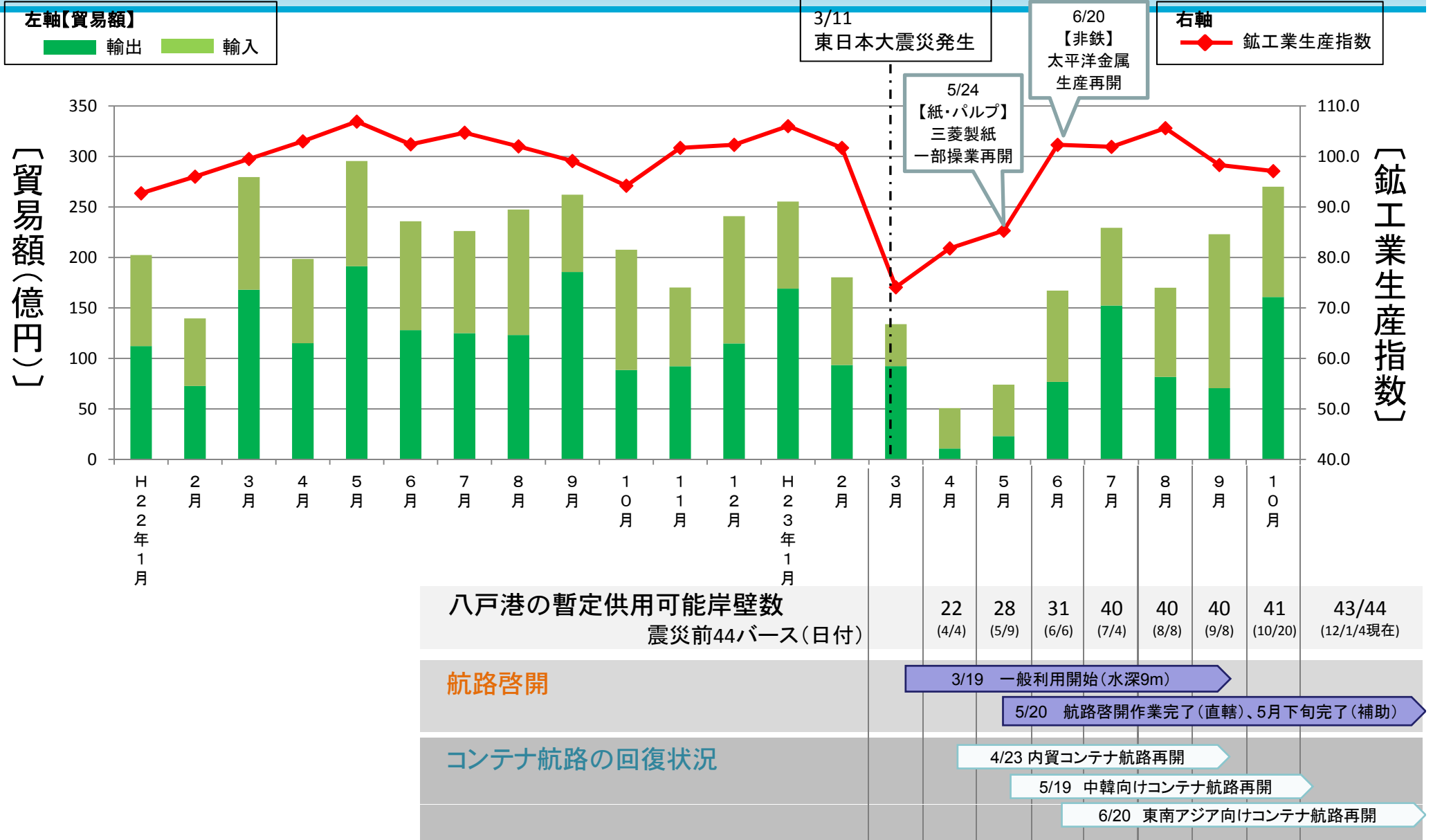
# 鹿島港の利用状況(取扱貨物量)

○ 鹿島港の貨物取り扱いは、平成23年7月8日の京浜港(内航フェリー)再開以降、企業の生産再開や航路再開と共に震災前同水準まで回復。

○ 取扱量は、平成23年11月時点で月60万ト(対前年同月比96%)

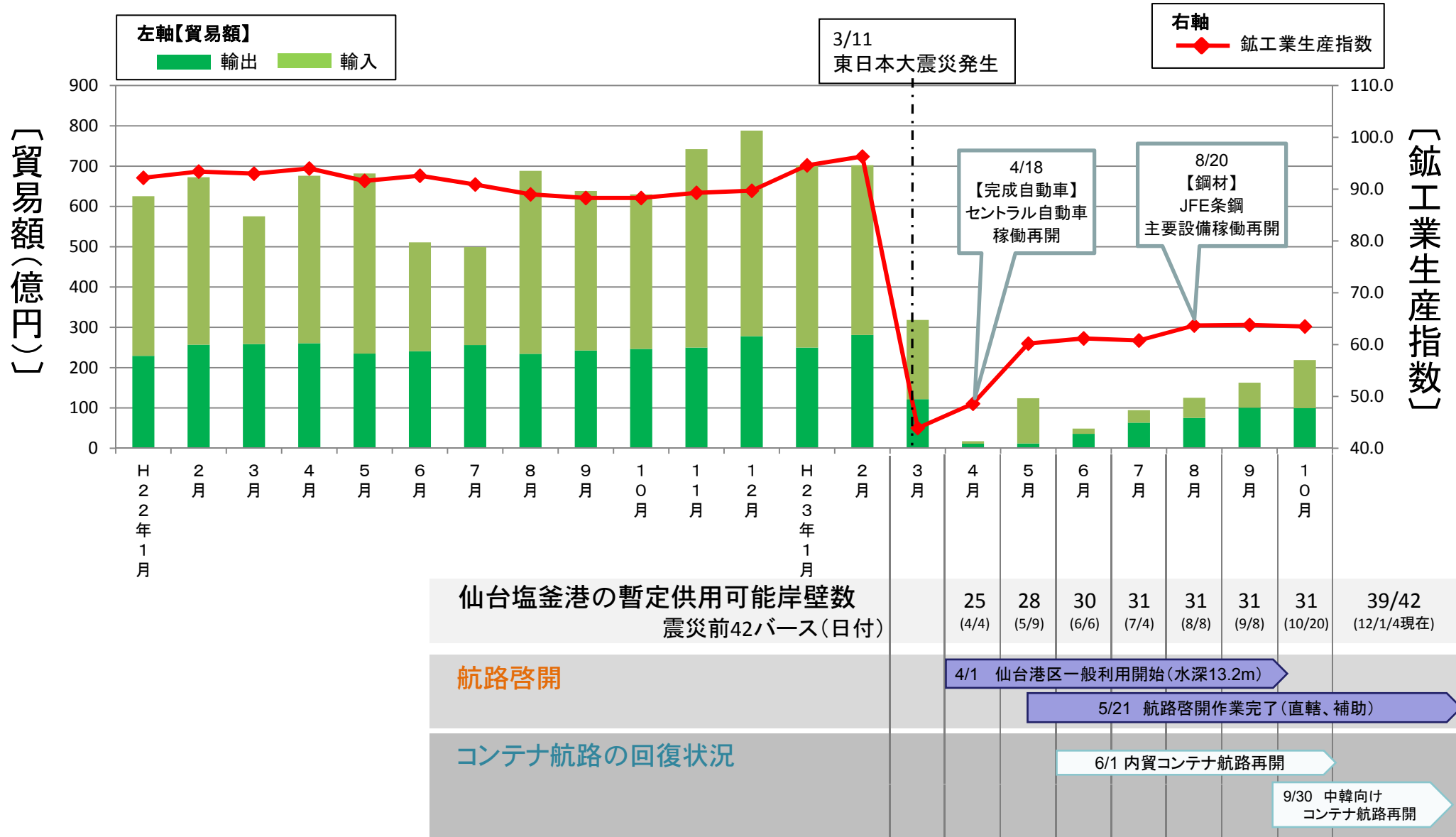


# 八戸港の貿易額の推移及び青森県の企業復旧状況



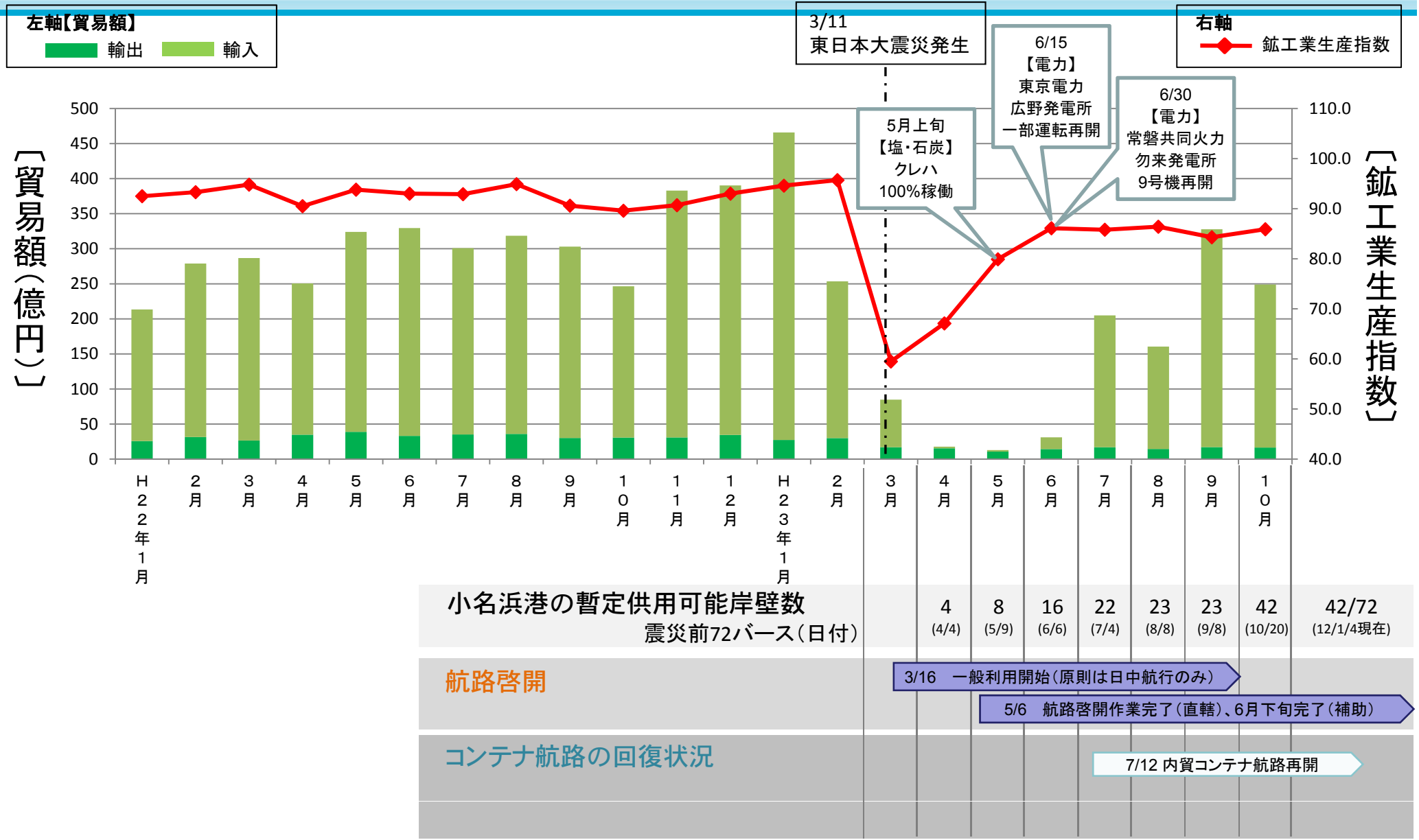
※鋁工業生産指数は季節調整済指数、平成17年=100  
 出典：貿易統計、各県、各企業等の公表資料をもとに国土交通省港湾局作成

# 仙台塩釜港の貿易額の推移及び宮城県企業の復旧状況



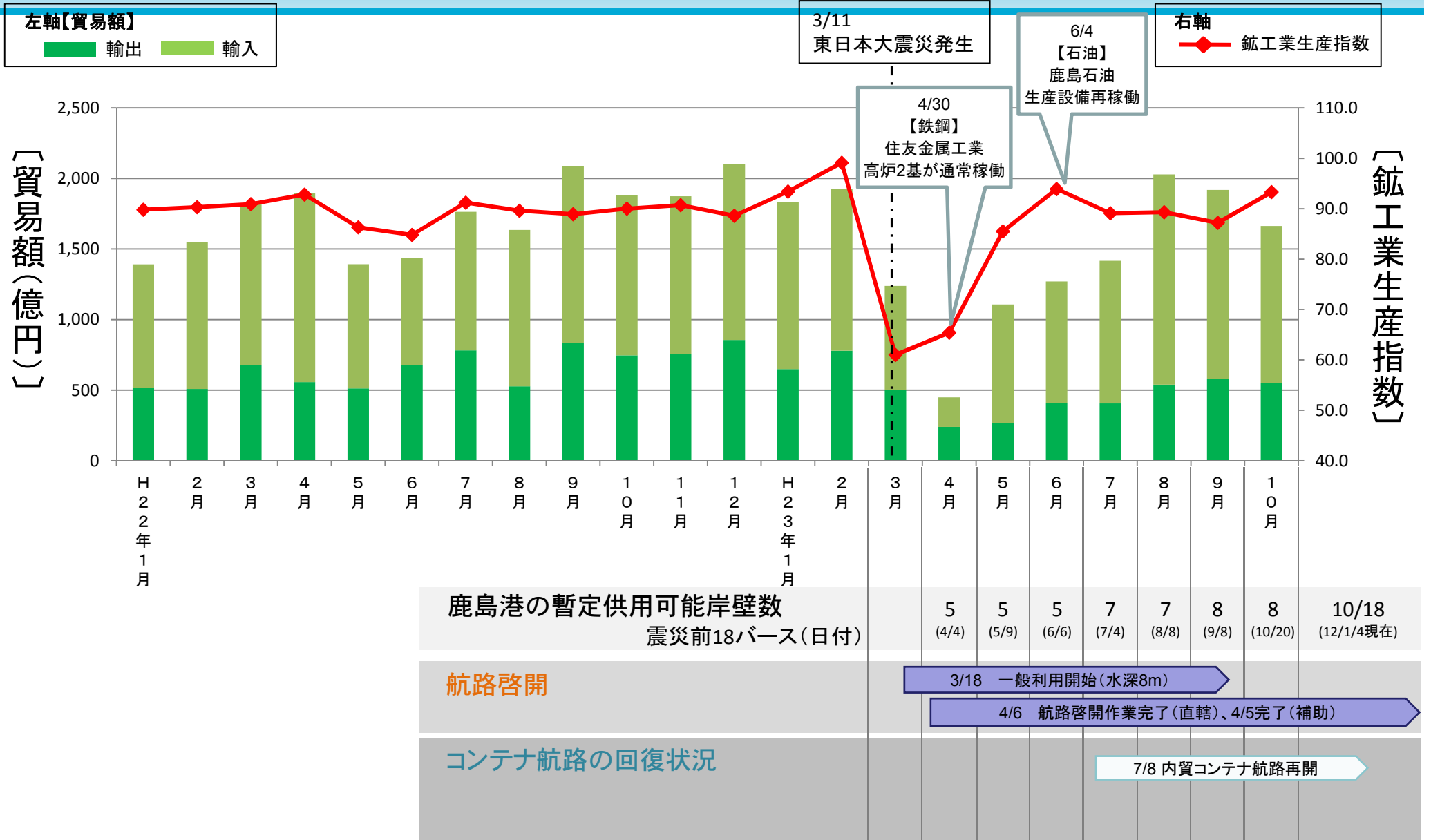
※鋁工業生産指数は季節調整済指数、平成17年=100  
 出典:貿易統計、各県、各企業等の公表資料をもとに国土交通省港湾局作成

# 小名浜港の貿易額の推移及び福島県の企業復旧状況



※鋁工業生産指数は季節調整済指数、平成17年=100  
 出典:貿易統計、各県、各企業等の公表資料をもとに国土交通省港湾局作成

# 鹿島港の貿易額の推移及び茨城県の企業復旧状況



※鉱工業生産指数は季節調整済指数、平成17年=100  
 出典：貿易統計、各県、各企業等の公表資料をもとに国土交通省港湾局作成



# 地域の復旧・復興の牽引①



フェリー定期航路が4月28日から再開  
(仙台塩釜港 フェリーふ頭)



コンテナ定期航路が6月8日から再開  
(仙台塩釜港 高砂ふ頭1号岸壁)



発電に必要となる石炭船の第1船が6月7日入港(小名浜港 5号ふ頭)



東北の畜産を支える穀物運搬船の第1船が7月11日入港(石巻港日和ふ頭)

## 地域の復旧・復興の牽引②



宮古港 ケーソンヤード



石巻港 大型石炭船の入港(H23.11)



仙台塩釜港 自動車運搬船の震災後第一船(H23.4)



仙台塩釜港 北米定期コンテナ航路の再開(H24.1)



## 仙台塩釜港(仙台港区) 高砂2号岸壁(-14m)



着工前全景  
平成23年4月18日撮影



コンクリート舗装  
平成23年11月29日撮影



クレーン基礎杭打設  
平成23年9月17日撮影



完成後全景  
平成23年12月12日撮影

## 八戸港 八太郎地区 北防波堤





## 茨城港 常陸那珂港区 荷役機械

